

新約聖書路加傳

全

柳田文庫

文庫11

A1517





文庫11
A 1517

耶穌降生二千八百十六年 米國聖書會社

新約聖書路加傳

明治九年 日本橫濱上梓



新約全書 路加傳福音書

第一章 路加傳の中にあつて信ぜられしことを始より

親しくみて道につくられたるのみ、
く記載んとあはるる人々これを手にとるは貴き
テヨピロよ、これも原よりまづこの事をつまびやくは考究
られ、次第をあらはるんぢや書あらず、
られ、
の王へロデのときよアビアの班ある祭司ザカリヤといふ
ものあり。その妻ハアロンの裔にて名をエリサベツといふ
とのに神のまゝして義人あり。まづ主の誠命と礼儀を

新約全書

路加傳第一章

自一至十四節

のけるくあらん^七。エリサベツ始る^八ききかゆあ^九よう^十ま^{十一}らに
子^{十二}あり。ま^{十三}二人^{十四}らの年^{十五}も老^{十六}ぬ。ザカリヤその班^{十七}次^{十八}はあ
りて神^{十九}のま^{二十}は祭司^{二十一}の職^{二十二}をあら^{二十三}ふと^{二十四}き。祭司^{二十五}の例^{二十六}はあ
がひ。籤^{二十七}をと^{二十八}りて主^{二十九}のみ^{三十}を^{三十一}より^{三十二}香^{三十三}を^{三十四}焼^{三十五}く^{三十六}を^{三十七}得^{三十八}く^{三十九}を
と^{四十}き^{四十一}ける^{四十二}とき^{四十三}に衆^{四十四}の^{四十五}ひ^{四十六}り^{四十七}ぐ^{四十八}み^{四十九}る^{五十}外^{五十一}は^{五十二}あ^{五十三}て^{五十四}いの^{五十五}ま^{五十六}り^{五十七}
主^{五十八}の^{五十九}つ^{六十}う^{六十一}ひ^{六十二}香^{六十三}壇^{六十四}の^{六十五}み^{六十六}ぎ^{六十七}は^{六十八}う^{六十九}ち^{七十}を^{七十一}ザカリヤ^{七十二}に^{七十三}あ^{七十四}ら^{七十五}れ^{七十六}し^{七十七}て
ザカリヤ^{七十八}これ^{七十九}を^{八十}み^{八十一}て^{八十二}あ^{八十三}ら^{八十四}て^{八十五}あ^{八十六}ら^{八十七}る^{八十八}。天使^{八十九}う^{九十}きた^{九十一}り^{九十二}ひ^{九十三}ける
ハザカリヤ^{九十四}よ^{九十五}あ^{九十六}ら^{九十七}る^{九十八}あ^{九十九}ら^{一百}れ^{一百一}る^{一百二}あ^{一百三}ん^{一百四}ぢ^{一百五}の^{一百六}ね^{一百七}ぐ^{一百八}ひ^{一百九}ま^{二百}を^{二百一}ま^{二百二}きた^{二百三}た^{二百四}ま
へ^{二百五}り^{二百六}。あ^{二百七}ん^{二百八}ぢ^{二百九}の^{三百}妻^{三百一}エリサベツ^{三百二}男^{三百三}子^{三百四}を^{三百五}う^{三百六}ま^{三百七}ん^{三百八}その^{三百九}名^{四百}を^{四百一}ヨハ^{四百二}子^{四百三}と^{四百四}ま^{四百五}ぐ^{四百六}
へ^{四百七}。あ^{四百八}ん^{四百九}ぢ^{五百}よ^{五百一}う^{五百二}ら^{五百三}る^{五百四}び^{五百五}と^{五百六}あ^{五百七}ら^{五百八}み^{五百九}あ^{六百}らん^{六百一}。あ^{六百二}ら^{六百三}く^{六百四}の^{六百五}人^{六百六}も

ま^{六百七}そ^{六百八}の^{六百九}う^{七百}ま^{七百一}ら^{七百二}に^{七百三}よ^{七百四}り^{七百五}て^{七百六}よ^{七百七}う^{七百八}ら^{七百九}る^{八百}び^{八百一}あ^{八百二}らん^{八百三}。それ^{八百四}の^{八百五}子^{八百六}主^{八百七}
の^{八百八}ま^{八百九}は^{九百}大^{九百一}ら^{九百二}らん^{九百三}。ま^{九百四}葡萄^{九百五}酒^{九百六}と^{九百七}濃^{九百八}酒^{九百九}と^{一千}を^{一千一}の^{一千二}ま^{一千三}ど^{一千四}。母^{一千五}の^{一千六}
胎^{一千七}より^{一千八}う^{一千九}ま^{二千}れ^{二千一}り^{二千二}て^{二千三}聖^{二千四}霊^{二千五}よ^{二千六}充^{二千七}さ^{二千八}る^{二千九}。ま^{三千}そ^{三千一}イス^{三千二}ラ^{三千三}エ^{三千四}ルの^{三千五}民^{三千六}
の^{三千七}あ^{三千八}ら^{三千九}く^{四千}の^{四千一}ひ^{四千二}と^{四千三}を^{四千四}主^{四千五}ら^{四千六}る^{四千七}その^{四千八}神^{四千九}は^{五千}歸^{五千一}服^{五千二}ま^{五千三}へ^{五千四}け^{五千五}ま^{五千六}ら^{五千七}る^{五千八}
う^{五千九}ま^{六千}エ^{六千一}リ^{六千二}ア^{六千三}の^{六千四}心^{六千五}と^{六千六}才^{六千七}能^{六千八}を^{六千九}の^{七千}り^{七千一}て^{七千二}主^{七千三}の^{七千四}さ^{七千五}き^{七千六}を^{七千七}よ^{七千八}う^{七千九}ん^{八千}。これ^{八千一}父^{八千二}
の^{八千三}こ^{八千四}ら^{八千五}ら^{八千六}に^{八千七}子^{八千八}を^{八千九}慈^{九千}を^{九千一}せ^{九千二}。逆^{九千三}め^{九千四}の^{九千五}を^{九千六}義^{九千七}人^{九千八}の^{九千九}智^{一万}に^{一万一}う^{一万二}ら^{一万三}せ^{一万四}。主^{一万五}
の^{一万六}こ^{一万七}ら^{一万八}あ^{一万九}ら^{二万}る^{二万一}民^{二万二}を^{二万三}備^{二万四}ん^{二万五}と^{二万六}ら^{二万七}り^{二万八}。ザカリヤ^{二万九}天^{三万}使^{三万一}は^{三万二}
う^{三万三}ひ^{三万四}ける^{三万五}。う^{三万六}ま^{三万七}ま^{三万八}で^{三万九}う^{四万}年^{四万一}あ^{四万二}ら^{四万三}妻^{四万四}も^{四万五}ま^{四万六}ら^{四万七}う^{四万八}年^{四万九}邁^{五万}これ^{五万一}
何^{五万二}よ^{五万三}う^{五万四}て^{五万五}う^{五万六}この^{五万七}こ^{五万八}ら^{五万九}あ^{六万}ら^{六万一}る^{六万二}を^{六万三}あ^{六万四}ら^{六万五}ん^{六万六}。天^{六万七}使^{六万八}こ^{六万九}ら^{七万}う^{七万一}て^{七万二}う^{七万三}ひ^{七万四}ける^{七万五}
い^{七万六}ら^{七万七}る^{七万八}ガ^{七万九}ブ^{八万}リ^{八万一}エ^{八万二}ル^{八万三}と^{八万四}て^{八万五}神^{八万六}の^{八万七}前^{八万八}は^{八万九}う^{九万}ら^{九万一}う^{九万二}ら^{九万三}る^{九万四}。あ^{九万五}ん^{九万六}ぢ^{九万七}よ

ものとりて至上者の子ととる人らとせん。まこと主とする
神その先祖ダビデ王の位とくれよあつたまをヤコブの
家とくぎり多く支配せむ。まことその國を治むることあら
ざらん。マリア天使よりひける。それいまだ夫と適ざる
よのうよりてこのことあるべきや。天使こそてひける
い。聖靈あんぢと臨むとくきもの大能あんぢとあな
せん。このゆゑよあんぢがうむとくきの聖なるもの神
の子ととる人らとせん。それあんぢの親戚エリサベツ
も年おひて男子をもらへり。素むらみ多きものとい
それたり。ゲリマをばよとらみて六ヶ月よありぬ。その

神にあのてをあんぢととるけさばあり。マリアいひ
けり。まことこれ主の使女あり。あんぢのりるごとく
我よあまを。天使つひよくきとささる。そのらあ
マリア起てまはる。山地あるユダのむらにガカリア
の家よりてエリサベツとあひさる。エリサベツ
マリアのあひさるをきく。その胎孕をらめうちて
跳動たり。エリサベツ聖靈よこされ。あやむきと叫ひ
けり。女のうちをあんぢのさいをひるものあり。まこと
姪とくきのものよさいをひあり。まこと主の母とくきよ
きく。それるにけり。このことを得。それるんぢ

のあひさろの聲こゑが耳みみよりりりとき。さらみ子こよろこび
てその腹内はらうちよとどまり五五主しゅのこころを信しんぜしものいさ
をひりりその主しゅのこころたまひしごとくこのあはれを
あはれけれはあり四六マリヤのひけら。その主しゅをあがめ
つたたまひひいさか救主きうしゅなる神かみとよろこぶ四八されその
使女つかひめのいやしきをも眷顧くわんこしやふが申まをあり。いさよりのち
萬世よろこばまでも我われとさのたまひるものことあふべし四九それ
權能ちからをもちくまへるもの我われよあはれあることとをあせり。
その名なはきよく五そのあはれを世々ようれを敬畏あやそむのよ
あはれん五一その臂ひぢのちうらをあらわし心こころの驕おごれるもの

とちり五二權柄けんぺいあるものを位ゐよりあろ。卑賤ひけんものをあが
五三 飢うゑるものを美食めいじとあはせ。富とみるものをむろくく
らせ五四アブラハムとその子孫こゝろをうごりあへあはれむ
いらをばはらむ五五その僕あひだイスラエルを扶持たすけたまへり。
これら五六の先祖せんぞよりひきまひしごとくあり五七マリヤ
エリサベツとをりしこと三月えんげつをうりまをあのが家うちより
五八 きたりき五九さてエリサベツ産期うむきみちて男子おとこをうめり六〇その
隣里りんりのいのまを親戚しんせきのいの。主しゅがエリサベツにおあひする
慈悲じひをくれたまひしこととをきくことよのによろこぶ六一
第六日むいじちよあはれびけむらうをうり子こに割礼くわんれせんとしてきこる。

その父の名よりザカリアと名づけんとせしむる母
らうとて。ありまぐらむヨハネと名づけんとしひけれ
バ六二 ありまぐらエリサベツにむらひてしひけれ。あんぢが親戚
のらうとてこの名と名づけしものあり。六三 ありまぐらつひよ
その父又頭みて示意しうと名づけんとありあう問たると
六三 サカリア寫字板と請てその名ヨハネありとかきしある
し。六四 皆あやめり。六五 ザカリアの口たぢらよひけれ
舌とけものしひて神と名めたり。六五 その隣里にまみくる
人々らあそまぬ。まぐらてこのころをあるぬ。ユダヤ
の山地よりひあらされ。六六 ありまぐらのみふこけむら
は

とめて。この子いらるものやあらんとしり。さうて
主の手りきこととにあり。六七 父ザカリア 聖霊よこされ
預言ししひけれ。六八 主あるイスラエルの神の讚美べきうま。
られその民と眷顧てあがまひとあり。六九 ありまぐらのしめは
拯救の角とそのありベダビデの家よとてたぢらあり。七十
しより聖なる預言者の口とめてしひてあひがごとく
七二 ありまぐらむれを敵まぐらむれを悪めあり
手よりしむを拯救あり。七三 仁恵をまぐらの先祖よと
し。七四 ありまぐらの聖約とてまぐらとあり。七五 ありまぐらの先
祖アブラハムよとて。七六 ありまぐらの誓言よして。七六 ありまぐら敵の

りまゝ胎マとぞどりりがるさまは天てんのつらひの稱なづ一いちとく名
と耶穌イエスととあつりつり三モーセの例あきまはあつりて潔け目めみち
けまゝ。まゝあつりて主まはさうげんがうめエルサレム
にのちれり三これ主まのあきまをうめよりあつり男子なんの
主まの聖せいのめととあつりてとあつりてとあつりてとあつりて二
主まのあきまは班鳩ばんこうひとつらひ或あるハ雛ひな鳩たうあつりてとあつりて
とつりてとあつりて祭まつりをさきんとしつり二五さうエルサレム
はミスオとつり入いあり。このひとあ義ぎまて虔誠けんじやうありて
イスラエルの民たみのあつりてめられんころとあつりてあつりてあつりて
うつ聖せい靈れいそのうつとあつり二六まゝ主まのキリストをみまごる

らちの死しあどと聖せい靈れいまてあめさきま二七聖せい靈れいは感かんり
て神かみ殿だんまゝあつり。兩親りやうしんその子こ耶穌イエスをあきまのあつりて
あつりて行いつととつらひ二八シメオンとあつりてあつりて
あつりて神かみを讚美たんびひひけり二九主まよりまその所言しよごんはあつり
つひて僕わがを安然あんぜんは世よを逝しせ三〇つら目めまを萬民ばんたみ
のまづは設またまひて救すくをみたり三一これ異邦人いぱうじんをてらさん
光ひかりあり三二まゝあつりて民たみイスラエルの榮さかる三三その父母ちちは
あつりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつりて三四シメオン
うあつりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつりて
ラエルのあつりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつりて

とろけん。その號なづはとろけん。^{三五}これあふくの心のなほひの
顯露あきまんがとめあり。まゝ劍つるぎあんぢがうらうらも刺透さべー
○^{三六}アセルの支派やうパヌエルのむさめよアナとりける預言者
あり。うまひ甚いくよりあり。その處女よめあり。とき夫ととよ
適あて七年ちちとめたるまき^{三七}この老女おんなひよをひあふよを八十
四歳しじの婆やめよりいけ。神殿みやをもちまを夜よもひらも禁食げんじと
祈禱きたうをして神かみ又つうへたり^{三八}いときこの老女おんなもかたをり
にとちを主しゆを讚美さんび。まゝエルサレムエルサレムまで贖あがなをのぞめるま
その人ひとよらの子のこころをうらまひ^{三九}○主しゆのあきとよ志
とろひてとろひくをうらまひけまはる。ガリラヤのあひがむら

ナザレナザレよくまたり^{四一}その子こや成長せいじやうして精神せいしんまをり
又智慧ちゑみち神かみの恩寵めぐみそのうらまをまひ^{四二}○さしてその
あや年としじつは逾越よすいの節ふし又エルサレムへあき^{四三}この
十二歳じふにさいのとき。まゝこの例れいよあうらひエルサレムエルサレムにのぶ
ま^{四三}節日ふしびとをりてうらまひ^{四四}その子こ耶穌いしすハエルサレム
又とまひぬ。あうらにヨセフと母ははをもち^{四五}同行人どうぎん
のうらまをうらむ。あひひ。一日程いちじつぢやうをもちて親戚おんせきあうら
めのみまがね^{四五}あまがひけまはる。うらまをうらむ
エルサレムエルサレム又うら^{四六}三日さんじつ此こゝのち聖殿みやまであひたふ。このま
教師けしうのうらまを坐ま。うら聽きうら問とめ^{四七}聞きめ^{四八}のこま

その智慧とその應對とをあやしとせり。 四九 兩親ふたおやこれを
みてあどろき母ははのれよりひげふ子こよ何ぞ日まをた
如此かくあるあどろきや。あんぢの父ちちとこれとらまひてまんぢ
とらまひてらまひて 四九 耶穌イエスキリヤこれと尋もと
るや。 五〇 父ちちの事ことをつとむべきを 五〇 あどろき
さしごと 五〇 兩親ふたおやのそのくくめることを 五〇 ささるべき 五〇 耶穌イエスキリヤこれと
とのよとらまひて。 五一 ナザレよりうてくれらにあどろきを 五一 まをた。
その母ははらまひてのまをたのこを 五一 らまひてとめぬ 五一 耶穌イエスキリヤ
ちあゆまをひもひゆまをさす。 五一 神かみと人ひとにまをた 五一 愛あいせ
らまひたり。

第三章 テベリオカイサル在位あざむの十五年あまごねん。ポンテオピラトハ
ユタヤの方伯つぐなとあり。ヘロデハガリラヤの分封君わけしむちのみさまとあり。
その兄弟まがらふピリポハイツリアあまびテラコニテの地ちの分封君わけしむちのみさま
とあり。ルサニアハアビレネの分封君わけしむちのみさまとあり。 二 アンナス
とカヤバ祭司さいしの長ちやうとあり。 三 ザカリヤの子こヨハネ
野のをうて神かみの命令あむせをうけ 三 ヨルダンの所ところにまをた。 三 まを
ての地ちまをた。 四 罪つみの救きうをえさせんがためよとめあふ
めのバプテスマを宣のたまつてらり。 四 預言者よげんしやイザヤのこゝろを
あやまらる書ふみよ。野のによむる人ひとのこゝろあり。 五 いそく主しゆの道みち
とそまへ。そのみちまを直ただせよ。 五 まをたの谷やはらめ

は答ひひけり。日まの^二水^一をめて「バプテスマ」をまんとぢらに
あつあつり。日まより能力^{ちから}あまののきくらん。日まのその
履帯^{くわい}をとくらのたぐをうれい^{せいりつ}聖霊と火^ひをめて「バプテスマ」をま
ぢらよあつあつん^{十七}手^てを箕^みをもちてその禾場^{こむぎば}をまよ
め麥^{むぎ}にあつめてその藏^{くら}よいせ。穀^{こむぎ}はまをるる火^ひよてやく
づ^{十八}ヨハネま^ま多端^{おほい}をめてまをるる。福音^{きん}を民^{たみ}よ
のべつらんたり^{十九}さそ分封^{ぶんぽう}君^{きみ}あるへロデその兄弟^{けいだい}ピリポの
妻^{つま}へロデヤの事^{こと}あよび行^{あそび}とらるのまをてその悪^{あく}こころを
ヨハネよしめられけり^{二十}ある由^{よし}悪事^{あくじ}をくまへヨハネ
を獄^{いやく}よひれり^{二十一}民^{たみ}みる「バプテスマ」をうけくるに 耶穌^{いすう}もま

バプテスマをうけていのれりとき。天^{てん}ひらけ^三聖霊^{せいりつ}鶴^{つる}のこるとき
状^{じやう}よてそのうへよりぬま^二天^{てん}より聲^{こゑ}あり云^いらんぢら
り^一愛子^{あいし}より喜悅^{よろこび}とらるのめあり^三時に耶穌^{いすう}とらり
約^{あひやく}を三十^{さんじゅう}より福音^{きん}を宜^{よろこ}む。ひとくよヨセフの子^ことあも
るま^一ぢらり。ヨセフの父^{ちち}へり^二その父^{ちち}ハマツタテその父^{ちち}ハ
レビその父^{ちち}メルキその父^{ちち}ヤナナその父^{ちち}ヨセフ^五その父^{ちち}ハ
マタテヤその父^{ちち}アモスその父^{ちち}ナオムその父^{ちち}エスリその父^{ちち}ハ
ナムガイ^{二六}その父^{ちち}マアツその父^{ちち}マタテヤその父^{ちち}セメイその父^{ちち}ハ
ヨセフその父^{ちち}ユダ^{二七}その父^{ちち}ヨハナその父^{ちち}レサその父^{ちち}ハゼル
バベルその父^{ちち}サラタユルその父^{ちち}ネリ^{二八}その父^{ちち}メルキその

父ハアツテその父ハコサムその父ハエルマダムその父ハエル
三九 その父ハヨセその父ハエリエセルその父ハヨホレムその父
ハマツタテその父ハレビ^三その父ハシメオンその父ハユダその
父ハヨセフその父ハヨナシその父ハエリアキム^三その父ハメラア
その父ハマイナシその父ハマツタテその父ハナタンその父ハ
ダビデ^三その父ハエツサイその父ハオベテその父ハボアスその
父ハサルモンその父ハナアリン^三その父ハアミナタブその父ハアラムそ
の父ハエスロンその父ハパレスその父ハユダ^三その父ハヤコブその父
ハイサクその父ハアブラハムその父ハテラその父ハナコル^三その父
ハサルクその父ハラガウその父ハパレクその父ハベルその父ハサラ

三六 その父ハカイナシその父ハアバザテその父ハセムその父ハノア
その父ハラメク^三その父ハマトサラその父ハエノクその父ハヤレド
その父ハモレエルその父ハカイナシその父ハエノスその父ハセツ
その父ハマダムアダムハをあるもち神の子あり

第四章 さて耶穌^イセのまのよみくまをてヨルダンよりく。

霊^二よみちびうれ野^二よゆきと^二四十日^二悪魔^二よくらみくら。
一の諸日^あよをもちくらをを^あ四十日^あををりてのち^あ餓^あ
り^三悪魔^あうれよひひける。あんぢめ^四神^あのこらるを
一の石^いよ命^めとを餅^{パン}とあらせよ^四耶穌^イくらけ^い人の餅^{パン}
のちよて生^いるものよあらせよ。神^いのまをその言^いよ

よらと録されたり 五 悪魔まことのわざをいふまは山よりの
まは瞬間又天下の萬國をあめしん 六 いひけらるゝのまは
この權威と榮華をあんぢよあそん。これこれさまうさ
れこれをもつた所欲のよこれをあそぶ 七 ちよ
り 一がまはる拜跪をこくくあんぢの屬とあん
耶穌 一とけら。サタンよらがらうろよあうぞけ。たご
主とらんぢの神よひまあ 一これよのまは
あうされたり 九 悪魔まは耶穌をエルサレムよつれよ
聖殿のいごまきまはしひけらる。あんぢめ 一神の子
あうばらうよりあめが身をあげよ 十 一神その使者

ちに命とらんぢをまめらせん 十一 一あんぢが足の石よあま
がらやうらうまら手よとさあま 一とあうらる 十二 耶穌
いけらる。主とらんぢの神をうらむぶらうまといひ
あけり 十三 悪魔らの誘試をまをうてあまらうらうまを
まあまらり 十四 耶穌せのまの能をゆてガリラヤようら
しよその聲名あまねくまらうの地よひらうらまぬ 十五
をえたり 十六 その長育 一とらうるるナザレよまは
常例のごとく安息日よ會堂よいりて聖書をよまんとそ
うらけれを 十七 預言者イサヤの書をあそぶ。耶穌

その書とひらきてこのく録れしところを見ゆせり
十八の主の靈たまよりあはれしをよめ。ゆゑに貧乏のよ福音をつ
つんらとをつとめよ膏あぶらをそそぎて任にんト。心の傷いたるものを
醫いす。まゝ囚人めいじんとゆるさんこと。警者めいしやと見させんこと
とあめし。まゝ壓制あきんらるものをもあめし。十九の主の禧年
を宣のたまひしめんがためよまきをつとせり。二十耶穌書いしすをよめし。
その役者やくしやよあめしと坐ましけまじ會堂かいだうよあるもの
みる目めをとめて視みるせり。三耶穌いしすうきらるしひけり。この
録まされしこと今日こんにちあんぢらめまよ應驗おうげんり衆しゆれ
と稱讚めいじその口くちよりいづるところの恩惠めぐみのことをもあめ

しみるしひけり。このヨセフの子にあらむや。三耶穌いしすうき
らよしひけり。あんぢらうあらむとつとせり。四諺しやうをひきて。醫者いしや
みづらうをいゆせ。五まじらきしとところ此カベナウムよ
行ゆしところを自己みづかひの家郷うちかたあるこの土とちにゆるまきべしと
いもん。又またしひけり。これまじらにあんぢらにづけん。
預言者よげんしやそのふるまひとよその敬重たうとうるものよあらむ。五
まこととをいそめんぢらにづけん。エリヤのとき三年と六
ヶ月げつ天あまとちて徧地くわんちあるある。六饑饉きんありし。その時ときイス
ラエルのうちよあるある。七姦やのめありしと。八エリヤハその
一人ひとりへだたつとちさるるを只シドンしどんあるサレパタのひとり

養ヤウ又つうもさられしニ預言者エリヤのときよイス
ラエルのうちよあまの癩者ありしうどそのひとらど
又潔きよられむ。よスリヤのナーマンのときよあられし
會堂かいどう又ありしものこれをききてあまのよらきとあり三九
起て耶穌イエスを邑まちのそとにりし。あげあまんとてその邑
のこちなる山やまのつげままむひきぬけり三十九耶穌イエス
みれらの中ちゆうをとありてさりぬ三九ガリラヤのカペナウムといふ
るまちよしりて安息日あんそくじつごとた衆しゆうをいし三九そのこと
を權威けんりありけれむひらぐそのまじしよとらけり三九會
堂かいどう又汚けがる鬼おにの靈たまよとりつれし人あり。あまのよさ

びひひけり三九あまナザレの耶穌イエスよとらきしるまんとるまんの
與ともあらんや。まんとらきしりてみれらとららむをさる。こらま
まんとら誰たれまらむをいし。ままをさる神かみの聖せいるものあり
耶穌イエスこれを責せめてしひけり。聲こゑをいし三九とられ。そこ
を出いす。惡鬼あくまつひよその人ひとをひらぐのまにたか三九傷やま
しし三九衆しゆうみまあまらきたぐひよかたりしひけり。權威けんりと
能力ちゆうりをいし三九けられし鬼おによ命いのちざりて出いさ三九り。是これの
道みちぞや三七耶穌イエスのまに三九徧あまねのまらりの地ちよひら
かりぬ三八耶穌イエス會堂かいどうをいし三九シモンの家いへよりし三九シモン
の妻母つまははあまの熱病ねつびやうをいし三九ひらぐ三九これがとあ

又耶穌イエスキリはねがひけきまむ。そのかゝるにたちて熱あつをせめ
しし熱あつありぞけり。婦むすめもあは起たてかれらに供事つとり
早はや日のしりときさあぐの病やまひを召よづらむたのものをのこる
人々ひとびとみよそれを耶穌イエスキリよつぎきしりければ。一々ひとひとそのらん
手てをあきせいやせり。悪鬼あくまもまゝあゝる人々ひとびとをりせ
さりさけびて。あんちも神かみの子こキリストありとしり。あ
るにらきを斥せてのりあゝるをむかひつぎ。悪鬼あくまその
キリストあるを志こころれをあり。あゝるあき耶穌イエスキリしでる人々ひとびと
ところよゆきけきを。衆むねらねきしりてその離去さうやころを
あゝむ。耶穌イエスキリしひけり。されまゝあゝるのむろくも

神かみの國くにの福音きんごんとのぶつてきざるを得えむ。そのつぎにされが
めは奉使ほうしする身みぶあり。うんてカリラヤの諸會堂しよかいだうよて道みちを
のぶつてきざり。
第五章ごしやう ひらぐ神かみのららむをきうんとて擠擁あひあけり。耶穌イエスキリ
ゲネサレの湖うみのりらりにとちて。いそに二艘ふたふねのふねあを
見みる。漁いさなのめめ舟ふねをもちあれを網あみをあゝひをきり。三さんその
一艘いっさうをシモンシモンの舟ふねあり。耶穌イエスキリられんのり。請いて岸きより
召よづらむらりをもち。坐かしを舟中ふねなかよりひらぐ。彼かをさ
教しよをもちてシモンシモンよひひけり。澳あきへいをあみを下くだしてま
どれ。五ごシモンシモンらとて入いりけり。師しよそれら終夜しゆやをさしりりど

まりきこられり^{十六} 耶穌イシュアつねよ人ひとあきとらうらにありぞき
て祈いのり禱たがひたまひき○^{十七} あらひ耶穌イシュアをしくをみせるときパリ
サイのひとと教法けうぽう師しガリラヤの諸郷しよきやうユダヤエルサレムより
きこりてこゝに坐ざしぬ。このまじりの病やまひをいやまじき主まの能ちから
あらわれり^{十八} あらひと癱瘋ちゆうふんをやこころものを牀とこのせと
うききこり。これを家いへよいま耶穌イシュアのまよあうんとあひど
由よし^{十九} 群集ぐんしゆよて昇のぼりてきりたあうりけまが屋上やうじやうよのあり
瓦かきをとりのけて。その人ひとをねごいのまじ衆人しゆじんのあうへつ紐いあ
ろ。耶穌イシュアのまよあけり^{二十} 耶穌イシュアその信ちんあをみてまじひ
のゆよ。人ひとよるんぢの罪つみゆるさるといひければ^{二十一} 學者がくしやと

パリサイのひとぐ心こころよあひひりせけら。この褻瀆けがれこころを
いふゆの誰たれぞ。神かみよりあうよこれう罪つみをゆるまこころを得え
ん^{二十三} 耶穌イシュアそのあひひをきりて答こたへいひけら。あまをるんぢ
らこころのうちに論ろんむらや^{二十四} るんぢの罪つみゆるさるといふ
と起おきてあゆめといふといひつむらやまき^{二十五} それ人ひとの子こ地ちを
罪つみをゆるまその權威けんいあらうをるんぢらにあらせんとして。つ
ひよ癱瘋ちゆうふんの人ひとよ。それるんぢよつと。起おきてねごいのをとり家いへ
ようまじといひひけまが^{二十六} そのひと衆しゆじんのまよあてこころに
あきを卧あみこころねごいのをとり。神かみを稱讚あやめてあのがいんよ
うへりぬ^{二十七} 衆しゆじんみみるあまらきと神かみをあがめうらあるいよ

畏懼^{あそれ}ていひけら。それより今日^{こんにち}よりぎあることを見^みたり
○^{三十一}このうち耶穌^{いしすま}のてい^{レビ}とつる税吏^{ぜいし}の税関^{ぜいけん}は坐^ましあけ
るをみて。それより志^{こころ}あつていひけら。レビ^{レビ}一切^{いっせつ}をきてあき
起^たて志^{こころ}あつてい^{レビ}。あのみれ家^{いへ}より耶穌^{いしすま}のためは豊盛^{あゆみ}
ある筈^{はず}をまうけし。税吏^{ぜいし}また他のひとぐもとの又^{また}筈^{はず}
坐^ま志^{こころ}あつるものあるうけ^ま。そのところの學者^{がくしや}とパリ
サイのひと耶穌^{いしすま}の門徒^{かど}につまやきいひけら。そんならみ
つぎとり並^なつみある人々^{ひとびと}ととの又^{また}飲食^{おんじき}をたふる又^{また}ゆゑ
ぞ^{三十二}耶穌^{いしすま}らつていひけら。康強^{かむやう}あるものか醫者^{いしや}のため
けをのめを。病^{やまひ}あるものこれをもとむ^{三十三}我^{われ}の志^{こころ}

人をまねくためはあらむ。さう罪^{つみ}ある人を悔改^{くわいかい}させんか
ためあり^{三十三}耶穌^{いしすま}よりいひけら。ヨハネの徒^{かど}は志^{こころ}
禁食^{こんじき}する祈禱^{きんたう}をする。パリサイのでもまた然^{しか}る。あつる
にそんなの門徒^{かど}のむことくらふことをする何ゆゑぞ^{三十四}
耶穌^{いしすま}いひけら。新郎^{いんやう}の友^{とも}の志^{こころ}むと一處^{いっしょ}にむら
らあら。これ又^{また}禁食^{こんじき}するむらむらを得^えんや^{三五}のち新郎^{いんやう}
とつらむ。日^ひしん。その日^ひはごんごまむまむあり^{三六}壁^{かべ}
をのていひけら。新衣^{あたらしたの}をきりとりて舊衣^{ふるい}をつらむもの
あらむ。あつて新衣^{あたらしたの}をもそのあひうらあつて
きよりとりむら。布^{ぬい}のあつるものとあつて^{三七}又^{また}あつて

起^{あき}てたてり 耶穌^{いしす}いひける。これるんぢらにともん。安息日^{あんそくじつ}
は善^{よき}をあるまじく悪^{あき}をあるまじく。まじ生^{なま}をてまじくを殺^{ころ}とりけれ
ざるあまじき^十しひよびをみまじく。その人^{ひと}は手^てをのぶよ
としひけり。くまそのこころせしよ。手^てはまをちう愈^いてる
の手^てのこころあまじ^{十一}くまらあまの怒^{いかり}てしうは耶穌^{いしす}をあるま
じく^{十二}しひよびありあまじ^{十三}のこころ耶穌^{いしす}いひりあま
じ山^{やま}ヨウキをよめまじく神^{かみ}よりのまじ^{十四}夜^よあけて耶穌^{いしす}
をよび。そのらあり^{十五}十二人をあまじみてこれを使徒^{しした}
とるまじ^{十六}即^{すなはち}ちペテロとるまじけちあまじ^{十七}シモンその兄弟^{あに}
アンデレー。あまじヤコブとヨハネ。ピリポとバルトロマイ^{十八}マタイ

とトーマアルバイの子あるヤコブとゼロテとしひりシモン
十六 ヤコブの兄弟^{あに}のユダとイスカリオテのユダあり。この
ユダを耶穌^{いしす}をつてあまじ^{十七}のこころあり 耶穌^{いしす}こまじ^{十八}
とめにくまじ^{十九}たひらるる地^ちよこあしに。あまじの門徒^{かど}
とあまじ^{二十}しひらぐユダヤの四方^{あまじ}まじエルサレムあまじ
ツロシドンの海邊^{うみべ}よりまじ^{二十一}あまじ^{二十二}或^{ある}はその教^きをま
じ^{二十三}あまじ^{二十四}病^{やまひ}をいあまじ^{二十五}ことまじ^{二十六}あまじ^{二十七}
悪鬼^{あくま}あるあまじ^{二十八}これのあり。くまじ^{二十九}あまじ^{三十}
衆^{しゆ}みる耶穌^{いしす}まじ^{三十一}とせり。これ能力^{ちから}のその身^みより
い^{三十二}くまじ^{三十三}醫^いせまじ^{三十四}耶穌^{いしす}目^めとあ

げ門徒をみてしひけり。あんぢら貧者のさしをひり。
神の國はまあるらんぢらのものあるまじきあり。あんぢら
いま饑乏のいのちをひり。飽くを得ずけむあり。
あんぢらいま哭むのいのちをひり。目くらふことをうべ
けむあり。人の子ため人あんぢらをしむ。ま
とるさけ罪。あんぢらの名を悪とてまてあるんぢら
福あり。その日よまらうとびあざれ。あんぢら天よあ
て賞賜あるのあれあり。その祖が預言者よりたり
あもくこのごとく。あんぢら富のいのちをひりあうな。
まじよ安樂とられあり。あんぢら飽のいのちをひ

あうある。饑んとまればあり。あんぢら今よりいのちを
ちひあう哀あるんとまればあり。まじよの人あんぢら
をゆるめある。あんぢら目をひりあう。その祖がしり
の預言者より。たりまのこのごとく。これよ聽とる
のあんぢらよつげん。その仇を愛し。あんぢらをしむ
ものを善し。詛いのを祝し。虐遇ののためよ祈禱せ
よ。あんぢらの頬の右方をうらまをま。左方のをしむ
よ。あんぢらの外服とて。あうまの禁ざれ。まじよあん
ぢら求むこれよあう。あんぢらの物とてをしむをま
索るあり。あの人よせうまんとま。このまじよ人よ

そのごとくせよ。 ^{三三} あのを愛するものをあのを愛するもの
賞賜 ^{あづか} あらんや。 悪人 ^{あくじん} にてもあのを愛するものにあの
るあり ^{三三} あのを善 ^{よき} をするものよ。 善 ^{よき} をするものよ。 善 ^{よき} をするものよ。
むくぬ ^{三三} あらんや。 悪人 ^{あくじん} もまたこのごとく行 ^な りありあらん
ら償 ^{うぐせ} ることを得んとあの人 ^{ひと} も借 ^か へるものむくぬあら
んや。 悪人 ^{あくじん} もそのごとく償 ^か をせんとしてまた悪人 ^{あくじん} 又 ^{また} を
るあり ^{三五} あらんちり仇 ^{あひ} を愛 ^{あい} し。 また善 ^{よき} をする ^{三三} 何 ^{なん} ものぞま
むくぬ借 ^か あらんよ。 さらむその賞賜 ^{あづか} へあるひあり。 うち
至上 ^{じょうじやう} 者 ^{もの} の子 ^こ とあらん。 それ至上 ^{じょうじやう} のもの恩 ^{おん} を受 ^う けらる ^{三六} もの
あよび不善 ^{あしき} 者 ^{もの} 又 ^{また} まを慈愛 ^{じあい} をする ^{三六} ことせむあり。 ^{三六} ことよゆ

よらんちりの父 ^{ちち} のあをれみのごとくまた憐憫 ^{あわれみ} をするべ
し ^{三七} 人を議 ^ぎ する ^{三三} あり。 またあらんちりもさう ^{三三} 人を
つみする ^{三三} ことあられ。 さうあらんちりも罪 ^{つみ} せられむ。 ひと
をゆるせ。 さうあらんちりもゆるせ。 ^{三八} 人はあらんよ。
さうあらんちりも予 ^{あへ} り。 ^{三九} 量 ^{つくり} をよくしあ
らむ ^{三九} 撼 ^{あざむ} りまあがらむ ^{三九} 量 ^{つくり} をよくしあ
らんちりもさう ^{三九} 量 ^{つくり} をよくしあ ^{三九} 人 ^{ひと} 又 ^{また} さう ^{三九} 量 ^{つくり} をよくしあ
し ^{三九} 〇 ^{三九} 譬 ^{たとへ} ごとく ^{三九} 量 ^{つくり} をよくしあ ^{三九} 量 ^{つくり} をよくしあ ^{三九} 量 ^{つくり} をよくしあ
びき ^{三九} をする ^{三九} 得 ^え る ^{三九} やあ ^{三九} び ^{三九} と ^{三九} の ^{三九} 溝壑 ^{みぞ} 又 ^{また} あ ^{三九} り ^{三九} ざ ^{三九} ん
や ^{四〇} 早 ^{はや} し ^{四〇} の ^{四〇} 師 ^し 又 ^{また} さ ^{四〇} ら ^{四〇} せ ^{四〇} 。 ^{四〇} あ ^{四〇} ら ^{四〇} も ^{四〇} 全 ^{ぜん} 備 ^び る ^{四〇} もの

その師のごとくあるべし。四、あんぢ兄弟の目よあるちりをみて
 あのまの目よある梁木をあらざらんぞや。五、いふであの
 れの目よあるうづむりをみむして兄弟をむくむ。兄弟よ
 むんぢの目よある物屑をこれよとらん世よとりのことを得
 んや。偽善者よまづあのまの目より梁木をとれ。さうを
 兄弟の目よあるちりをとることあきうらにみゆべし。三、それ
 悪果をむきむの善樹にあらむ。まづよきみむを結いあへし
 樹よあらむ。四、まづこの樹の果よよりとらる。荆棘より
 無花果をとらむ。まづ蒺藜より葡萄をとらむ。五、善人の
 こころのよきくらより善といふ。悪人のその悪庫よりあ

しきよのいふまは。その心よみつるより口よのいふまあり。四六、あんぢ
 らがういふことをあつあをむして何ぞこれを主よ主よと
 とあつや。四七、まづそこれを就てがうらむをきくを行為の
 たらうそあんぢらよしめさん。四八、その人の家をうらむ土を
 むくりていづかを磐石よあけむ。四九、洪水のとき
 横流そのいづを衝ともうらむことをあへむ。これ基礎
 といふものうらよあけむあり。五〇、聽てあつあをむるものい
 むるあつ家を土のうらよたてむる人のごころあつあをむるを
 うつとむるものいづかをあらむ。その顔壊まづさうを
 ぞ

第七章

耶穌イエスキリこのまじぶとの言ことを民たみにさしんをさしりてカペナウム
 より二ある百夫ひやくばんの長ちやうその愛あいする僕おんのみてしぬをさしり
 ありけきぶ 耶穌イエスキリのこころをきくユダヤの長老ちやうじやうどのをつらそ
 して。きこり 僕おんをさしりてたすめんことをねがひり。うねら
 耶穌イエスキリ又就ききうききりにさしめりひけり。このこころを求もとむひと
 いよきひらあり 五ごが民たみを愛あいしつらさるのこめは會堂くわいどう
 を建たてり 六ろく 耶穌イエスキリうまはりとのめはゆきそのめをその家いへに
 ちるづけるとき。百夫ひやくばんのうらり友ともごちをつらさしりていをせ
 けり。主しゅよさづららるを勞動らうどうことあり。つら家裏かみよりれ
 まらりあそれあり 七しち 故ゆゑ又ささるんぢの前まへよりづらゆ

ましあそれあり。こゝ一言ひとことをいひてたすめんがこゝがあひべ
 の愈いへんハその人ひとの權威ちからのあこは屬まかするものなるをこゝが
 下したまは兵卒へいそつありてこれ又ゆけと人をゆき。うねよきこ
 れといふをきこる。こゝが僕おん又これとあせといふをきこる
 ち行いぐゆ急いそあり 九く 耶穌イエスキリきこてこれを奇あまあさる人々ひとらを
 うりみせりひけり。これあんぢらにつげん。イスラエルの
 中ちゆうにてもいひまごかる 篤信あつしんよあまざりき 十じゅう つらをさされたる
 のの家いへよりりて病やまより 僕おんとみまをさすを全快ぜんかいと
 るせり 〇 翌日あした 耶穌イエスキリ ナインとける邑まちよゆきけり。あや
 くの門徒かどあよび 群衆ぐんしゆうゆとめにゆけり 十二じふに 邑まちの門かどよちるづき

死しぬのいのきうへされ。まづしきめのの福音とさうせらる
三 あらよそわがためよつまづらざるののさいもひあり
ヨハネの使者きりしものち。耶穌ヨハネのこととひとごとく
いひける。何とみんとて野よいでしや。風ようごうさう
葦あろろ^{二五} さらばあんぢらあよとみんとせいでしや。
中をらうきこらもとさうる人あろろ。文繡とさてあごれる
のの王の宮あり^{二六} さらもあをみんとて出しや。
預言者あろろ。然るれあんぢらにつげん。これ預言者よ
りもまぐれくるのあり^{二七} それあんぢよさまだちて
道とそあろろ。使者とあんぢのまへよあくらんと録

されくらのまあをちこれなり^{二八} それあんぢらよつげん
婦のらめるののちよいままバプテスマのヨハネより
あろろの預言者あり。さうと神の國のちひさきもの
ゆこのまより大あり^{二九} ヨハネよきける庶民まゝ^{三〇} 税吏
はそのバプテスマとらけて神を義とせり^{三一} パリサイの人まゝ
教法師とそのバプテスマとらけた。みづうら暴て神の旨に
そむきたり^{三二} さうバの世代のひとりぐをまろろあごる。
まゝ何よとらんや^{三三} まらべ市よ坐し^{三四} ながひよよびそ。それ
ら笛あけどもあんぢらあごらる。悲歌をまれどもあんぢ
ら哭むといふよまら^{三五} そのバプテスマのヨハネきたりて餅を

もろくも酒をものまざれば悪鬼まとりつられたるものあり
りとるんぢらりりり 三人の子ききうてくらみくらみくらみくら飲こ
とをまればまき食をうみ酒をこのむの人みりぎとり
罪人の友ありとるんぢらりりり 三三されど智慧のちるの子
又義とせらるる 〇 三六あるパリサイのひと耶穌を請てともに食
せん 一七をぬぐひけきば 耶穌パリサイの人の家よりて
食まわけり 三三 邑のうちに悪行をよせる婦ありけり
耶穌がパリサイのひとの家を坐まをちりて 臘石の盒は
よりひあぶらをしめききり 三六 耶穌のうら又立あも
とに 哭き涙をてそのあをうらあ 首の髪をゆてこれを

ぬぐひ。うつその足は口をつけ。また香膏をこれたぬまり
三九 耶穌をまぬきけるパリサイのひとこれをみて心のうち
又いひけり。この人か 預言者あらばさしめりしものを
誰あらう。またいふある婦あらうをあらん。このをんる悪行
をよせるものあり 四一 耶穌られ又いふていひけり。シモン
とれるんぢらりりり 三三あり。これいけり。師よいひたれ 四二
耶穌いひけり。ある債主とありの負債人ありて。ひとりい
金五百ひらりり 五十とあり 三三 債のこるうりけり。この
ぬぐひの二人をゆき 三三。さしめ二人のゆのそのの
ぬぐひを愛することいひけり。あなき。我又きりせよ 三三 シモン

新約全書 路加傳第七章 自三十九至四十一節 三十

こゝにけり。されあのみにゆるさるゝことありきものありん。
耶穌イエスいひけり。あんぢがあふとさうしうをさるるあり四つしよ
婦メカをくり見てシモンシモンよりいひけり。このさんるをみる。これ
あんぢの家いほに入いるあんぢの足あしは水みづをあふせ。このさんるの
袂たもとまで水みづがあふさうさるゝの髪かみをめてぬぐり五さん
ぢの足あしは口くちをつけせ。このさんるの首くちらはこゝに入いるとさうしうは
足あしは口くちをつけせやま五さんるの首くちらはあふさるゝぬぐせ。こ
のをさんるの足あしがあふたい香膏かこうをぬぐり五の由よしはこれさんるの
いさんいのさんるのあふさる罪つみはゆるされり。これよりてその
愛あいもまゝあふさるあり。赦ゆるさるゝことせしめさるゝめめその愛あいも

まゝあふさるゝ四八 於是こゝそのさんるよりいひけり。あんぢの罪つみ
ゆるさる四九 どのに坐まさるゝものどの心のうちよりいひけり。この
人ひとはこれ何人なんにんあるべ罪つみをもゆるさるゝ五 耶穌イエスさんるにいひけ
り。あんぢの信しんるあんぢをゆるさるゝ安あん然ぜんとてゆけ
第八章 このうち耶穌イエス 諸あつ邑しやう諸あつ村そんをめぐりて神かみのくまの
福音きんをのべつゝ二 十二じふにの門徒かどもとのよきさうしうひぬ二
まゝ前まへは悪鬼あくまをうれひ一の病やまひをいゆるされたるさん
ふどのよきさうしうひ一。まゝさるゝ七あつの悪鬼あくまをあひし一
まゝるゝママググダダララといふ三ママリアリア三さんまゝへへロロテテの家いほ宰さいククエエの妻つま
ヨハヨハナナ。まゝ三ススザザナナ。このあふさるゝの婦つまありてみるその

所有あんごをもて耶穌Jesusよつてつりきり○四あちのひらぐ諸邑まち
よりいぞ耶穌Jesusのめとにありまりけむ。譬たとへをのてり
五種ごしゆまくののこねをまんとしていぬ。播まるとき路旁みちのわきにお
ち一いっ種しゆあり。さみつけらむらうそのの鳥とりこをさくら
り六むまこ石上いしのうへよあち一いったねあり。まほのてを稿かり。
これ潤うるみきかゆ急いそあり七しちまこ棘いばらのあうよあち一いっ種しゆあり。
いざらもとのにそとちてこれを蔽おほり八はちまこ沃壤おほよあち
一いったのみあり。生ないぞ實いをむまぐること百倍ひゃくばいせり。是これを
いひをさうてよまらりけむ。耳みみありてきこゆものいさく
九くその門徒かどとあをいひけむ。これいさくたさくぞ十じゆ

つけん。神かみのこにの奥義おくぎをまんぢらまの知しらるたま
ど。他たのものよらそとをのつてま。こを視みてもみゆを聽き
てもさうらざるためあり十じゆそれらのこを釋はなすま
神かみの道みちあり十一じゆみちのあうりよあち一いっまき一いっのち惡魔あくま
のこめよそのこらより道みちをとらるものあり。これ人の
信しんどとまをまんこを恐おそる十三じゆいものうよあち一いっ
きこときよろこびてこらをさうらねども根ねをけむ
信しんむらこ志こころをののみ。つぎをひよあちときを道みちよそ
むくものあり十四じゆいものあうにあち一いっきて往ゆこの
世よの諸慮しよるとたうらと宴樂えんらくとにあちをれそみのうざら

よひひけらん。なん何人^{なん}もたぞや。うせとみづくと命^{いのち}ぜ
うをまこちこづらん^{二六}。このくそガリラヤはむろくろガダラ入
の地^ちよつきそ^{二七}。さうにあがりしとき。あるひとり邑^{むら}よりい
で、耶穌^{いしす}はあふ。このりのちひきし。悪鬼^{あくま}はとうつくれ。
衣^{きぬ}をまを家^{いへ}はまをまを。と塚^{かぶつ}よのそあこりき^{二八}。耶穌^{いしす}を見
てさけび。その前^{まへ}よひきし。あや聲^{こゑ}よよをうけらん。
至高神^{しこうしん}の子^こ耶穌^{いしす}ははれるんちとあんの與^{とも}あらんや。まん
ちよ求^{もと}それをくろむることあり^{二九}。これ悪鬼^{あくま}に入^いり
ゆきしと耶穌^{いしす}が命^{いのち}トこちよよりそあり。うせのとうつくれ
うとことまをよひきし。鏈^{くわん}ま。桎梏^{あざむ}よて志^{こころ}をりまのれ

どのそまをさうあくま悪鬼^{あくま}のこめよ野^のよあをれぬ^{三〇}
耶穌^{いしす}は問^とていひけらん。あんちが名^なのあんといひや。こ
へけらん。レキオン。これあやくの悪鬼^{あくま}の入^いりやああり
三 悪鬼^{あくま}耶穌^{いしす}はねがひけらん。命^{いのち}トて底^{そこ}をきところよゆき
むらあり^{三一}。うにあやくの豚^{ぶた}のむれ山^{やま}よ草^{くさ}をくひあり
し。あれらその豚^{ぶた}よゆんこをゆせと求^{もと}けむ。これを
ゆるせり^{三三}。悪鬼^{あくま}その人^{ひと}よりいを、豚^{ぶた}よりいを。その群^{むれ}を
げし。うけらん。山坡^{うけ}より湖^{うみ}よあちてあがり^{三四}。牧者^{むしや}
どもそのありしこをみてにげゆき。これを邑^{むら}まむむく
よつげらん^{三五}。衆^{しゆ}そのありしこを見^みんとせり。耶穌^{いしす}のゆ

とにきかたむす。悪鬼のまをまきし人きののを著しうる心
みて耶穌のあしとよ坐するをみてあそれあり悪鬼
よとりつれしう一人のまをまきしさまを見たるゆゑ。其
さうまらにつげられ。ガダラ四方のあるまひひく耶穌
よらまをまきらんことをぬぐり。これあるまよあそれら
急まり。耶穌舟よのりてあしぬ。悪鬼のまをまきたる人
耶穌とよまをまきんことを求めよ。耶穌これをしうしあ
て家より神のるんちし行しあるまをまきんことを人よ
つげよしひけれを。遂にさうて耶穌のあそれよま
まひ大なることを遍邑よつてたり。○耶穌うらまたる

とき衆みるまちめてこれをよろこびむりし。ヤイロと
しる人あり。一會堂のつらさあり。年あるまを十二歳ある
ひとり女ありて死ぬるをうりありけむを。きこり耶穌の
あしとよまをまきんことをぬぐり。耶穌の
耶穌のゆくととき衆られよありあり。婦あり十二年血漏を
わづらひ醫者のとめよその業をこらぐくつてやけれを。
たむけしひされ得たり。耶穌のうらまをまきりて。
そのころもの裾よまをまきりけむをたごよ血のしがることと
まりぬ。耶穌しひけれ。とまをまきんものひくまをまきりて。衆
はみるころよまをまきんものありしなり。ペテロあまが借

ヨハネ 二二 二二
ルカ 八 卅五
マタイ 九 卅五

病やまひをのゆを能力ちからと權威けんりをさぐけし、まゝ神かみの國くにをつて、
病者やまひものをいやすせん、そのめよ、^三うきうきを遣つたさんらん、えりひける
へ。路資ちみちづかひはあまをもとらざれ。杖つゑもたじあつろ。くひの金の
あつろの衣ころもをもめり、ことあられ、^四いづれの家いへよりともそこ
にとまらん、まゝそこよりされ、^五らんぢらる不接ふせつのあら
ば、その邑まちをいづるとき、うれら又證あかしのめ足あしより塵ちりをさうらん
六 門徒かどいぞ、あまねく諸郷しよきやうにゆき、福音きふんをつて、^六うきやまひを
いせり、^七エリヤのちの君きみへ、^八ヘロデ 耶穌いすすのあせし、諸事しよじをきいて
まどへり。ある人ひとはこれをヨハネの復活ふくたつするありといひ、ある
ひとエリヤの現あはれするありといひ、まゝあるひとのいふ、

の預言者よげんしやの一人ひとりすみりけるありといふ、^九ヘロデいひ
ゆらん、これヨハネの首くびをきねり。如是かうし、^十このまことゆらん、
い誰たれあらう。ヘロデられとみんとあめ、^{十一}○使徒しとさうらん、
りき、^{十二}その所行しよぎやうを耶穌いすすにつて。耶穌いすすうき
をとりあひて、^{十三}潜ひそまベツサイダといづる邑まちのあり、^{十四}ある野のに
あり、^{十五}ぞき、^{十六}に土ちひりぐあり、^{十七}隨あまければ、^{十八}これを接つて神かみの
國くにのことあらう。うき醫いをのむるものをいせり、^{十九}○^{二十}日ひう
こふくとき、^{二十一}十二じふにので、^{二十二}き、^{二十三}て耶穌いすすよりひける、^{二十四}この野の
あれ、衆人しゆじんをさらせ、^{二十五}四圍よほりのむらごとく、^{二十六}ゆきて宿やどをとり、
食たを覓たづね、^{二十七}をさせ、^{二十八}十三、^{二十九}耶穌いすすよりひける、^{三十}らんぢら、これ

又食をあつたよ。こゝへけり。それらたゞ五の餅と二のうを
あるのこゝの あつたの人のこゝあましきを買又あつたれを
あつた食物へあつた。こゝにさうし男あつたを五千人を
耶穌でさうしひけり。ひびくを五十人づゝあつた坐せしめよ。
門徒そのこゝへさうしあつたれらさみあ坐せしめたり。十六
耶穌いつの餅とあつたのうをさうし。天をあまし祝して
これさうし。門徒又あつてひびくをまふあつたむ。十七
くひあましを餘のうを十二の筐にひらひらう。十八 耶穌ひびく
のさうしうしとき 祈禱さうし。十九 門徒もとのにさうし。
耶穌これとくさひひけり。衆もさうしをひびて 誰とさる

十九 こゝへさうしひひけり。バプテスマのヨハネあつたひエリアあつたひ
いひひひの預言者のひびくのさうしうしあつたありと。二十 耶穌
いひひけり。あんぢらひひれをひびてこれとさうし。ペテロこ
こへひひ。神のキリストあり。三十一 耶穌さうしをさうししめ
このこゝへ何人もさうしあつたと命さうし。三十二 我は
けり。人子あつたあつたあつたのさうしをさうしけり。長老
祭司のさうし學者のさうしをさうし。うしうしうし。三十三 第三日よ
よまがくる。三十四 耶穌ひびくをさうしひひけり。三十五 我は
がとんとあつたあつたのさうしはひびく。三十六 日々その十字架をあつた
これよあつた。三十七 其の生命をさうし。三十八 せんとさうしあつたこ

路加傳第九章 自十九至三十節

これ又きこへば 聲こゑやこゝろをばつて 耶穌イエスひとりを見たり。門徒カヘ
とち口くちをとちぢて見たり。こゝろを當時そのときとこれものつげざりき
の 翌日あしたやまよりこゝろけき。あやしのひととて 耶穌イエスをむち
ふ。そのうちのある一人ひとりよもむすむしひけり。師しよぬがまゝく
ま子こを眷顧かんぐとまへ。このまがひとり子こあるに 悪鬼あくまのため
とつうれとて 忽然とつぜんさけび。泡あはとあきひきつけられて 傷あざ
る。こゝろをこゝろのこゝろ 耶穌イエスを逐おひりてまをらるるを
ぢの門徒カヘ又めとめしうとあまをざりき 耶穌イエスこゝろをひ
けり。あゝ信しんあきまがまをる世よあるな。されんぢららのうち
又るんぢらるを忍しのびてひらまをあらんや。あんぢが子ことらるよ

つれきこれ 來きまふ 悪鬼あくまくまをたふしひきつげぬ。耶穌イエス
けがまをる鬼あくまをせめてその子ことらゆ。父ちち又あらんたり 衆しゆ
みる神かみのある能あたとあらき 耶穌イエスのるせ。こゝろをあや
しめるとました。耶穌イエスこゝろをひけり。この言ことばとあんぢら耳みみ
又まめよ。それ人ひとの子このひとの手てよもむすこれん 衆しゆくれに
のこゝろをささるとまざり。悟さとらるやうくされらるあり。
りまらもまへおそれてこゝろをささるとまざり。○ 門徒カヘ
ちの中うちだがひよこれら大おほあらんとあまをひありけきを
耶穌イエスその心こゝろのありひをあらん。孩子こどもととりそをたたて。 衆しゆ
りまらよりひけり。こゝろ各おののまめよこゝろをまむづを接あはるもの

路加傳第九章 自四十二至五十三節 四十

とを召れよゆるせ。耶穌六十一いひけり。死六十二たるものよその死六十三のものを葬六十四らせ。あんぢらゆきを神六十五の國六十六をひろめよ。まがゆきを家人六十七にひとりいひけり。主六十八よあんぢらよあこがひん。まがゆきを家人六十九にまがゆきをゆるせ。耶穌七十いひけり。手を七十一擧七十二げてららちをめぐりみるもの神七十三の國七十四よりあをさすものあり。

第十章七十五このうち主七十六まこと七十人七十七をこしてこらむを兩個七十八づよにうち。みづからいひけり。諸七十九邑八十諸八十一地八十二へさきつたつるをあんぢらよいひけり。收八十三稼八十四のあはく工人八十五のまくる。ゆゑその稼八十六主八十七はちこくものを收八十八稼八十九所九十にあくらんこと

を求九十一べり。三九十二牲九十三をさるんぢらをつらむを羊九十四と狼九十五のあはれいふ。四九十六囊九十七まを旅九十八ぶらる履九十九をものり。ことあはれ。みちよて人一百は問一百一候一百二をもはるあはれ。人一百三の家一百四よりいらむまがゆそのいんの平安一百五あらんことをねがふ。六一百六のいんに安一百七然一百八の子一百九あらむんぢらが祈二百るあんぜんその家二百一にとまらん。若二百二あうらむばそのいの安二百三然二百四るんぢらに歸二百五べり。その家二百六よとまらんて供二百七るとらものいられを飲二百八食二百九せよ。そのまらくものその工三百錢三百一をうたひ宜三百二るまらる。家三百三より家三百四よりつらことをせきられ。邑三百五よいんよ接三百六るものあらむそのあんぢらの前三百七よそあはるものを食三百八せよ。邑三百九のうらある病四百のものをいせ。まら衆四百一よ神四百二の

主ある父よらの道と智者と達者とよくして赤子よあら
ましなまふことを謝す。父よ然それうくのごとくまを意旨
ようあるあり。父の萬物をこれよあこふ。父のあらに子の
これるかとあるものあり。まこ子あよび子のあふまを
ろのいのけうに父のこれるかとあるものあり。耶穌で
と入りみてひそかにひひける。あんぢらが見るところのこ
とをみるその目のさむいさひあり。まこあんぢらにづげん。
あふくの預言者あよび王もあんぢらが見るところのこごとくを
みんとせしうごも見だ。あんぢらが聞るところのこごとくを
とせしうごもさうざりき。〇ここに一個の教法師あり起て

あれとらうみりひける。師よ見れるまをさうが永生とら
くべしや。耶穌ひひける。律法よあさされ何ぞ。あんぢ
りうたすむ。答てひひける。あんぢ心とつ。精神とつ
く。力をつ。意とつ。主あるあんぢの神と愛を
べし。まこ己のごとく隣とあひまを。耶穌ひひける。あん
ぢのこく然。それをあらあまを生べ。これみぐうを罪
あきののよせんとして耶穌よりひひける。まが隣とをたれる
る。耶穌こくそひひける。ある人エルサレムよりエリコよ
くぶるとき強盗よあへり。ぬきむとその衣服を剝とりて
これをうちたきあぬまうりにあてさりぬ。三めるとき

路加傳第十章 自二十六至三十七節 四十四

にある祭司まらしこの路ぢよりくさりしがこれを見まぐしにして
ゆけり三三またレビの人ひともくたにけりをみ見てあるじく
をぎゆけり三三あるサマリヤのひと旅たびしてくたにまぐり。こま
とみて憫あはれ言ことちうよりてあぶらと酒さけとその傷きずよき。これをつ
みてあのが驢馬ろばのせ旅たび郎らう又つぎゆきそをうら抱かかせり三五次日つぎのひい
づるとき銀ぎん二枚にまいとりて。館人あやう又あつて。この人ひとをくを
うせよ費つひえゆ。まさうを。見れうりめときるんぢ又償たごひじ
とりり三六さまがらの三人さんにんのうちこれうぬをびとよあひ
しりの隣となりあつてるんぢありのう三七うきひけらん。その人
とあそれみたるものあり。耶穌いすほひひけらん。あんぢも往ゆきて

そのころくせよ三八うさう路ぢをゆけるとき耶穌いすほあつてむら
しうけをを。マルタとさく婦とんぼこまをむらてみづららの家いへ
よる三九ぬ。その姉妹きみあひ又マリヤとさくものあり。耶穌いすほのあ
しめとよはらうりてその道ぢをまけり。早はやマルタ供給おんぎのこと
あつてし心こころりみざれ。耶穌いすほ又ちうよりてしひけらん。主しゅ
よるが姉妹きみあひを一人ひとりのこしとてちうらう志こころむるさあよ
ともあのをぶらう。このまは命いのちとてとまをさくまけ志こころめよ四一耶穌いすほ
しんそしひけらん。マルタよマルタよるんぢ多端あまのりによりありひ
まづらうてしうづらひをせり。それとあつてこのああまど
きののり四二あり。マリヤをさくまは善業よきわざをえらみたり。このら

まより奪うばぶらりびるものあり

第十一章

耶穌イエスあるところまで祈禱いのちあけよとせよ

ひとり門徒かたがひひひけり。主まよヨハネそのでよとせよ

いそいでまらりまものころとせよとせよ耶穌イエスひ

けり。いものときいりいり。天てんよまよとせよ

父ちちよ。ねがひくも聖名みことなをあがめさせたまへ。聖國みくにをきつらせ

たまへ。聖昔みことの天てんよ成なりじと地ちよもあさせたまへ

あくとあらぬ食たべを毎日まいにちよあつたまへ。罪つみをうらやま

まのものをまへてゆるせよとせよ。罪つみよゆるしとせよ

まよりあききこしとせよとせよ。世よをあらね惡わるよりとせよ

ごうたまへ五六。まようれたりひひけり。あんぢらの中うちの

ある人ひとよあらにその友ともへゆきて。友ともよららものだち途間ちまより

きこりて供ともびきめあきゆ急いそ三みつの餅もちをうせよとせよ

よ内うちよまらものころとせよ。それを煩わづらとせよ。めを門かどの

閉とぢこれとせよ。兒こども。牀とこよあれを。あきてあつことあ

むをといわのあらんや。いそるんぢらよつげん。その友ともらに

より起たてあつへされども迫切ひつてんとせよ。ゆ急いそよその需ひつよとせよ

あきてあつへ九。いそるんぢらよつげん。求もとよとせよ

へらよ。尋もとよとせよ。門かどをたけよとせよ。ひらり

を得えん。そのまへてめとむるもの得え。とせよ。めとの遇あひめん

と叩きのひらうるれが有り士るんちらのうち父たるもの誰
うその子の餅をりとめん石をあつんや。魚をりとめんよそ
れよりうて蛇をあつんや。卵をりとめん又蠍をあつんや。十三
されが爾らあきりのあがり善賜とその兒子又あつんやを
ある。まゝて天よりあをるんちらの父のちとむるのよは聖靈を
あつんや。○耶穌あつんや。ある悪鬼をあひりしけり。悪鬼い
て瘖者のひひしう。人々あどろけり。十五 中あるのひひしけり
。これの悪鬼の王ベルゼブルよりて悪鬼をあひりしせらる。十六
あつんや。耶穌とらうみんとて。天よりの異兆をりとめん。十七
耶穌そのころとありしひひしう。さうひよりてあつんや。國の

あつんや。さうひよりてあつんや。家たつありま。サタンのみ
づらうてあつんや。その國のや立んや。それあつんや。十九
我をりひてベルゼブルよりて悪鬼をあひりしせり。とめん。十九
これベルゼブルよりて悪鬼をあひりしせらる。あつんやの子弟
。これよりて悪鬼をあひりしせらる。それうきうのあつんや
の裁判人とあつんや。二十 けり。これ神の指をりてあつんやを
あひりしせらる。あつんや。神の國のやあつんや。あつんや。これり
。三勇士よりてあつんや。邸をりしとめん。その所有あつんや
り。三 けり。これよりてあつんや。それよ勝とめん。その
このみとせらる。鎧をりしとめん。二十 賊をりしとめん。三 此れとめん。

路加傳

路加傳

路加傳

路加傳

ざらりののこれよそむき。さきことりの斂あつざるののち
まあり○言あそき人よりりぞ早はやなるところをめぐり安
そめらむまじとの得えむしそひひけら。日ひが出入家いせより
らん五既まよきころしに。まききよりより修飾しゆじゆるを見みつむ
よゆきそあめまよりあふあき七あの悪鬼あくまをころす
てらに居まむ。その人の後のありさやいあつよりあふあ
りるべし。この話ことばをりるるとき群集ぐんしゆのあつより一婦ひところを
あげてりひけら。あんぢをころみ腹はらとあんぢのまむし
乳ちいさひをひあり二六耶穌いすほころへけら。然しかされど神かみの道みちを
きいてそむきさすのののさきまひよりあつむ○衆しゆお

しあつまむるとき耶穌いすほひひけら。いまの世よにああ。あ
るそめらむるとも預言者よげんヨナの奇蹟まがたのあつよあつ
あそくらむ三そのヨナがニネベの人ひとにあつよあつ
じとく人の子このいまの世よあつよあつ三南方みなみの女むすめ
王みさそむの日ひよとめた起たてりまの世よのひとの罪つみをさそめん。
うまの地ちのまそよりソロモンの智慧ちゑをきうんとそきこれり。
そむソロモンよりあふあつよあつ三ニネベの人ひとさ
むきの日ひにとめたあついまの世よの人ひとのつらさをさそめん。
よりあふあつよあつ三にあり三燈あかりをともして隠處かくれある

路加傳

路加傳

路加傳

路加傳

ひの升たまきのあつたあつものあり。入いきこむもの。その光ひかりをみ
 んのため。燭臺あきりだいのうへにあつあり。言い身のあつりの目めあり。あ
 ちの目めあきつらうあつる。全身ぜんしんあつる。その目めあけられ
 るあちの身みもつらう。故ゆゑはあちのあつる光ひかりのつらうらぬ
 やうつ。あつる。言いあちの全身ぜんしんあきつらうに。とく
 きとつらうあつる。燈あかりのうへあつる。あちをてつらうとく全ぜん
 あきつらうあつる。○三七 耶穌イエズスうへあつるとあつる。パリサイの人ひと
 とのに食あひせんことを請ねがひせむ。入いて食あひにつけり。言いその食あひを
 るとつらう洗あひつらうとせむ。つらうをみてパリサイの人ひとあちめ
 り。主まにれよ。ひひけり。あちからパリサイの人ひと。盥せんと盤せんのそ

とを洗あひつらうとせむ。とつらうあちから内うちの貪慾あつと悪あくをみてり
 言いあつらうあつものよ。外そとをつらう。つらうのつらう内うちを
 づらう。言いあちから所有あつものをめつらうとせ。さつらうあ
 ちのため。あつる。あちのつらう。潔あつつらうあり。言い禍わざはひあつる。あ
 ちからパリサイの人ひと。薄荷みょうこう芸香うんきやうあちびとつらう。野菜やさい十分じふぶんの
 一ひととつらうとつらう。義ぎと神かみを愛あいするつらうを廢あつ。これあち
 ふづらうとつらう。これあちつらうつらうのつらうあり。言いと
 づらうひらうつらう。あちから。パリサイの人ひと。會堂くわいどうの高座こうざ。市上いちじやう
 のあちつらうとつらうのめり。言いつらうひらうつらう。夫それあちつらう
 うつらう。墓はかばかのつらう。そのつらうをあちつらう。つらうを

路加傳第十章

自卅一至五十節

四十九

四十九

らの鳥とりよりゆふときこりしりくちくそや二五 んぢらのうち
誰たれよりよく思慮おもひかんがへてそのらのちを寸陰すんいんのべえんや二六 されを
最小さいしょうとせらあてをさうや何ぞそのちをあのひつら
あや二七 百合花ひやくりゅうのうたしてそらうとあひ。勞つとめを紡つむがさるふ
り。これるんぢらにつげん。ソロモンの榮華さうわの極きぎのときさにも
この花はなのひとりあどもよそらざりき二八 神かみさけの野のはあり
てあを爐いろよるげらさるら草くさをも如此かくよそをせらる
あしそるんぢらをや。あ信仰しんかううをきめめよ二九 んぢらふ
みを食くるを飲のみんとめとむらあられ。まら聖慮せいりょこころあ
れ三 まるべしれらのものを世界せかいの邦人くわんじんのめとむらあめ

り。るんぢらの父ちちこれらのめらのるんぢらにみくそめをぬ
ころをある三一 神かみの國くにをりめよ。さうをこれらのめらのるんぢ
らに加くわらる三二 ちひさき羣むらよあそるあられ。るんぢら
の父ちちいよりこびて國くにをるんぢらにあてたまらん三三 んぢ
らの所有しゆゆをうりて施濟せきあのがつめよつねあうびさる 財布さいふ
よるあをち盡つきさるころを天てんよそあへよ。そら盜ぬすもあ
よらむ盡つきもそらあをさるあり三四 んぢらの財寶さいほうのあ
ところ。いんぢらの心こころもまらそらよあへ三五 んぢら
腰こしに帶おびし燈あかりをとりのそをれ三六 あゆん婚筵こんぜんよりころり
きころり門かどをころりをまみゆらよひららん。あよらまを待まち

新約全書 路加傳第十三章 自三十一至四十二節 五十三

ひらののじとくせよ^{三七}主人きこりてその傲醒^{ウキ}しとくを見
びこの僕いさいをひるあり。まことよこれるんぢらにげん
主人みづらに帯^{おび}しあの人を食^たにつらせまみてこれ
供事^{きうじ}ま^{三六}あつひの二更^{によう}あつひの三更^{さんよう}又主人きこりて
あつるせらを見^みふびこの僕いさいをひるあり^{三九}るんぢらにれ
をあらべ^{四〇}家のあつ^{四一}盗^{ぬす}いづきの時^{とき}はきこらうと
あらをその家^{いへ}とまのうてやあらま^{四二}されべるんぢら
もあらう^{四三}めそのあ^{四四}せよ。あのをさるときよ人の子^こきこら
んとまをま^{四五}あり。ペテロ^{ペテロ}ひひけら。主^{しゆ}よこのことへい^{四六}ら
にいら。ま^{四七}らま^{四八}るんぢらにいら。主^{しゆ}ひひけら。時^{とき}はあ

よびて食物^{あじう}とあて^{四九}しめん^{五〇}めに主^{しゆ}がその僕^{しもべ}とも^{五〇}のうへ
く^{五一}忠義^{ちゆうぎ}ま^{五二}て智^ちりつづら^{五三}され^{五四}る^{五五}主^{しゆ}
き^{五六}ら^{五七}が^{五八}の^{五九}つ^{六〇}む^{六一}を見^{六二}ら^{六三}僕^{しもべ}い^{六四}を
あ^{六五}我^{われ}ま^{六六}ら^{六七}に^{六八}つ^{六九}げん。その所有^{しゆよく}を^{七〇}ま^{七一}る^{七二}れ^{七三}は^{七四}督^{とく}
ら^{七五}の^{七六}僕^{しもべ}こ^{七七}ら^{七八}の^{七九}あ^{八〇}ら^{八一}の^{八二}き
ら^{八三}あ^{八四}ら^{八五}んと^{八六}あ^{八七}ひ。その僕^{しもべ}婢^{めかけ}を^{八八}ら^{八九}あ^{九〇}ら^{九一}き^{九二}食^く飲^い
て^{九三}う^{九四}の^{九五}酒^{さけ}は^{九六}あ^{九七}ら^{九八}の^{九九}日^ひ
あ^{一〇〇}ら^{一〇一}の^{一〇二}時^{とき}は^{一〇三}き^{一〇四}こ^{一〇五}り^{一〇六}て^{一〇七}こ^{一〇八}を^{一〇九}斬^き刑^{けい}を^{一一〇}む^{一一一}を^{一一二}不^ふ信^{しん}者^{しや}
と^{一一三}あ^{一一四}ら^{一一五}の^{一一六}僕^{しもべ}あ^{一一七}ら^{一一八}の^{一一九}こ^{一二〇}ら^{一二一}を^{一二二}し^{一二三}ら^{一二四}る^{一二五}預^{ぞく}備^び
せ^{一二六}を^{一二七}あ^{一二八}ら^{一二九}の^{一三〇}心^{こころ}は^{一三一}あ^{一三二}ら^{一三三}の^{一三四}ら^{一三五}の^{一三六}こ^{一三七}ら^{一三八}を^{一三九}あ^{一四〇}ら

新約全書
路加傳第十二章
自四十三至五十三節
五十四
八十四

少き^まら^い 言^い 耶^い蘇^すら^まら^いよりひけ^らる。窄^{せま}門^{かど}よりく^らあ^らむ^かを^つ
くせ。とま^らる^んぢ^らら^いつげ^ん入^いん^らを^めと^めて^あら^はむ^べ
る^のの^あら^し。家^いの^あ主^{しゅ}を^め門^{かど}を^とぢ^らの^ちに^あん^ぢ
ら^そと^たら^ち門^{かど}を^とき^ん。主^{しゅ}は^主よ^られ^はひ^けと^しを^ら
ん^は主^{しゅ}と^いて。と^れる^んぢ^らの^何處^{ところ}より^きこ^らる^らあ^らむ^べ
と^いん^らあ^らむ^らと^きた^らと^れる^んぢ^のま^は食^く飲^ん
る^んぢ^まら^れら^の衛^{まも}り^とら^らい^しひ^きん^ら
よ^主と^いて。と^れる^んぢ^らに^つげ^ん。い^らむ^らら^きこ^らる^ら
ら^あら^む。こ^の悪^{あく}を^めの^よと^れを^され^とり^ん
ん^ぢら^らア^ブラ^ハム^イサ^クヤ^コブ^あら^むと^いて^の預^よ言^{げん}者^の神^のの^國

は^あり^てる^んぢ^らの^外に^あら^むら^むと^いて^見ん^らと^いて^哀
哀^あ哭^く切^き齒^くと^いて^あら^む。主^{しゅ}は^ひら^む西^{せい}や^ひが^北
と^いて^神の^國に^坐ま^らる^ん。それ^後の^も
の^とき^は先^まの^のの^あら^む。○この^日あ^らる^パリ
サイ^のひ^らむ^らて^耶蘇^すに^ひけ^らる^ペロ^テる^んぢ^を殺^{ころ}
さん^とま^らる^ら離^{はな}れ^とい^てひ^けら^る。あ^ら
ぢ^らら^あら^むその^狐と^いつ^げよ。と^れけ^らあ^らむ^悪鬼^{あく}を^あひ^い
づ^病を^いぢ^{第三}日^はこの^とき^をら^ん。され^{ども}今^ひ日^は
明^あ日^は次^つ日^をと^れる^らあ^らむ^をゆ^く。その^預言^{げん}者^のエ^ルサ^レム^の
レ^ムの^あら^むと^いて^あら^むら^む。あ^らむ^エル^サレ^ムよ

新約全書
路加傳第十三章
自廿九至第十四章三節
五十八

エルサレムよ預言者をしてらう。あんぢよつちをさされ。いのを石
にけうてるものよ。母鶏の雛をつむぎのあつてあつむるこ
とくしれるあんぢの赤子をあつめんとせ。いこしむび
そや。あんぢらの欲まを。みよあんぢらの家を壩とるうて
のこさるべ。まうとよしれあんぢにつげん。主の名によりて
きこるもの福ありとるあんぢらしんとまうするまをい
れを見ざらべ。

第十四章 耶穌あんそくにあらは食事のふあある宰あるハリサイの
人の家よりいへた。人々うれをうらむひこり。そのまは腹脹
をこがらひこる人あり。耶穌いへて教法師とハリサイ

のひらびよしむけら。安息日よりゆきこらよまやらるる
うまら默然たり。耶穌うの人をとらへ醫してこれをさう
しめ。うまらにこそしむけら。あんぢらのうらむこれら
驢あつひの牛あどの阱にあちうらん。安息日よはまみ
ちうに曳出さるう六うまらうらの言につきて。うたあること
あつてさうき。のうてその席にまねうれ。ひとりぐの
首位をえらぶを見て。耶穌こををりてうれらにひむけ
ら。あんぢ婚筵にまねうれんとき。首位は坐まらとある
れ。あそらうらんぢより尊人まねうれまぶ九うれとるん
ぢを請。いのきこりて。あの人よ坐をゆぐまらとるん。

らばあんがまがて末位まつゐにゆくべし。このゆゑにあんがま請まねまんとするゆきて末位まつゐ又坐ませよ。まねきしゆのききたりて友ともよ首位しゆゐにすめとあんがまにゆき同席どうせきのゆゑにまんとあんがまとまるべし。あまよそみづうり高ぶるゆゑに卑ひされみづうりつうごらゆゑにせらるべし。まごうまを請まねるゆゑにひひける。あんがま午餐ちゆうはんあるゆゑに晚餐ばんはんをまうくるとき朋友とも兄弟けいだい親戚しんせきまごめら鄰となりのひとをまねくまねれ。あまゆゑにうれゆまごあんがまをまねきしゆその報答ほうたふをるさんさん。あんがま筵あたまをまねき貧乏ひんぱふ廢疾うごせ跛者あひま瞽者こしやまごをまねけまね。さうらばあんがま福ふくあるべし。そのゆゑにゆゑ

んがま報ほうらとあまゆゑ。まごひひの復生ふくせいらんその時あんがまむゑにあまをありあり。まご又食ませるゆゑに一人ひとりこれまきて耶穌いしすにひひける。神かみのまご食まするゆゑにまごひひありあり。耶穌いしすこれにひひける。あま人ひとあまゆゑに筵あたまをまうけて多賓あまをまねけりまね。あままひのとき僕わがをその請まねるゆゑにつうごらて。まごそのゆゑに既すでにまごにたまふまごらるべし。ゆゑにまごにうれらるゑあまに辭ことをね。そのまごゆゑにゆゑに彼のまごひひける。まご田地かんでをうひまねがゆきて視みざるまごを。まごまごをまねきしゆまご一人ひとりのゆゑにひひける。まご五耦ごうの牛うしをうひまねがゆゑに試こころするゆゑにゆゑ

新約全書
路加傳第十四章
自十五至廿五節
六十

敵を不^レつぐ^レき^レる^レは使をつら^レく和睦をの^レむ
ざ^レき^レぬ^レら^レぬ^レめ^レで^レく^レる^レん^レぢ^レら^レその所有を^レら^レぐ^レ
ま^レん^レぢ^レら^レの^レ己^レが^レ門徒とある^レことを^レえ^レば^レ塩^レハ^レよ^レき^レの^レ
なり。されども^レ志^レわ^レる^レ味^レさ^レう^レあ^レも^レあ^レま^レを^レめ^レて^レられ^レ
味^レさ^レつ^レけん^レや^レ田^レよ^レの^レ糞^レよ^レの^レ益^レあ^レく^レ外^レは^レま^レて^レら^レる^レあり。
耳^レあり^レて^レき^レこ^レめ^レら^レぬ^レの^レの^レき^レく^レざ^レ

第十五章

さ^レく^レ税吏と罪あるもの^レの^レど^レの^レ耶穌は^レき^レう^レん^レと^レを^レち^レう^レ
より^レけ^レば^レバ^レリサイの^レ人^レと^レ學者^レと^レち^レう^レつ^レぢ^レゆ^レき^レて^レし^レひ^レけ^レら^レ
この^レ人^レは^レつ^レて^レある^レひと^レに^レま^レど^レそ^レう^レん^レと^レの^レ食^レせ^レり^レ耶穌^レの^レ
譬^レを^レう^レぢ^レら^レよ^レの^レう^レて^レし^レひ^レけ^レら^レる^レん^レぢ^レら^レの^レう^レぢ^レ誰^レも^レ一^レ百^レ

の羊あらんに^レし^レその^レ一^レを^レう^レん^レと^レの^レ野^レは^レあ^レき^レゆ^レ
きて^レその^レう^レし^レあ^レひ^レ羊^レを^レら^レる^レま^レど^レそ^レう^レん^レぢ^レら^レの^レう^レぢ^レね^レん^レぢ^レら^レの^レ
得^レば^レよ^レう^レぢ^レて^レこれ^レを^レあ^レの^レれ^レの^レ肩^レに^レう^レけ^レ家^レよ^レう^レて^レその^レ友^レ
と^レその^レ鄰^レの^レひ^レら^レぐ^レを^レよ^レび^レあ^レつ^レめ^レて^レし^レまん。そ^レの^レど^レの^レよ^レ
ら^レぐ^レ我^レう^レし^レあ^レへ^レる^レ羊^レを^レえ^レて^レま^レど^レそ^レう^レん^レぢ^レら^レに^レつ^レげ^レ
う^レの^レど^レの^レひ^レら^レの^レ罪^レ人^レは^レあ^レら^レぬ^レあ^レら^レぬ^レ悔^レあ^レら^レぬ^レ
よ^レあ^レら^レぬ^レ九十九の^レ義^レ人^レより^レあ^レる^レ天^レは^レあ^レの^レて^レよ^レう^レぢ^レ
あら^レん^レハ^レま^レる^レ婦^レの^レら^レあ^レら^レぬ^レ金^レ錢^レ十^レ枚^レを^レち^レその^レ一^レ枚^レを^レ
う^レし^レあ^レら^レん^レは^レ燈^レ火^レを^レと^レり^レて^レ室^レを^レ掃^レ除^レし^レこれ^レを^レう^レら^レま^レを^レ
の^レね^レん^レぢ^レら^レに^レつ^レげ^レま^レど^レそ^レう^レん^レぢ^レら^レの^レう^レぢ^レね^レん^レぢ^レら^レの^レ友^レと^レその^レ鄰^レ

新約全書
路加傳第十五章
自五至十五節
六十二

のひらぐをよびあつめてしめん。日ぬこまのよまらこぶ
ら〜あへる金銭をえさむるあり^十されんちらにつげん。
うくのこ〜ひらぐの罪人^{つまらぬ}あら〜めるが神^{カミ}の使^{ツカ}のま
よよろこびあへ〜〇^十ま〜ひひけら。あひと子あ〜り
あり^三そのあ〜と父にひひけら。父よ〜ら〜業^{わざ}を〜
れよ分^ぶあ〜へよ。父そのあんだいさ〜らよ〜らあ〜れが
^五幾日^{いくひ}も經^へざらにあら〜とそのあんだいさ〜ら〜くあり
めて遠國^{えんこく}へたびごとせ〜が放蕩^{ほうたう}に〜とその分資^{ぶんし}を〜ら
そ〜にて耗^{つひ}せり^十。ろ〜く〜つひゆせ〜と〜。あ〜いある
饑饉^{ききん}その地^ち又ありと彼^{かれ}と〜〜ありそのあけ^{十五}。ゆきそ

その地^ちのあるひらに身を投^なごう。その人^{ひと}あ〜を牧^ぼ〜あ〜ら
を野^のよつら〜せり^{十六}。う〜系^{けい}の食^たはら〜と〜の豆莢^{まめがひ}をめてあ
が腹^{はら}を〜とさんとあ〜ら〜とあ〜を〜ら〜らあ〜ら
る人^{ひと}あ〜^{十七}みづ〜ら省悟^{しょうご}てひひけら。そが父^{ちち}のと〜ら〜食^た
物^{もの}あまれる傭人^{やうじん}のい〜ら〜らあ〜にそれの飢^うて〜らんと
を^{十八}起^{おこ}て目^めが父^{ちち}よあ〜と〜をん。父よそれ天^{てん}とあんだのま〜よ
罪^{つみ}歎^{なげ}〜ら〜^{十九}あんだの子と〜ら〜は足^{あし}ぎら〜らあ
り。あんだの傭人^{やうじん}のひら〜の〜ら〜我^{われ}を〜ら〜と^{二十}はら
ちち起^{おこ}てその父^{ちち}よゆけり。あ不遠^{ふえん}あり〜にその父^{ちち}う〜ら
てあ〜れ〜。ち〜らゆきその頸^{くび}をひ〜ら〜て接吻^{くちくち}〜ぬ^三子

新約全書
路加傳第十五章
自十六至廿七節
六十二
八十四

ちうよりのひけらん。父よそれ天とあんぢのまふ罪歟をう
らむるあんぢの子とともあめたにうらざらあり。父その志も
べどのたりのひけらん。いと美服をのちきうてられよ衣せ。
その指は環をため。そのあは履をもちきうてられよ。指は環
をひききうて宰き。うらざら食してこのまん。うられと
が子。あまてまう生うらひてまう得らむらありとせられらと
とらよこのしみをうらむ。そのあは田ありしうら
て家よちうらぎ樂と舞のあをきう。その僕ひとりとよび
てこれ何ごとをせとらうらに。志のべのひけらん。あんぢのお
らうとらうらう。恙あくらむをえらうらうらうらとらあんぢ

け父とらうら積をもちうらあり。長子のうらうら入む。このゆゑ
よその父のうらうらなまめ。父にうらうらひけらん。と
れ多年るんぢにつうてうらざらあんぢのりまめたそむらうぢ。
されどこの友とこのむ。あは美をあは。うらあり
うらうらよ。妓のうらああんぢの業をつひ中。たうらあん
ぢうらうらをうらうらに肥うらうら。うらあり。父うら
にひひけらん。子よあんぢのうらうらとらめたあり。まうら
所有のうらあんぢのめあり。あんぢのあうらうらと死て
まう生うらうらうらてまう得らむらうらうらうらうらうらび
樂むら當然のうらあり

新約全書
路加傳第廿一章
自共至第廿六章五節
六十四
八十四

第十七章

耶穌

らん。そとをきこつてまのの禍わざはひあるうゑに、この小子のひとり
 さつちつらまゐるよりの磨石ひきうしを頸くびよりけられて海うみよりあげのき
 らきんこ。その人のためよよりるべし。三つらを謹慎けんじんよ。
 めし兄弟きょうだいあるちよ罪つみ赦ゆるさうさぶこれことを諫とがよ。うれし。悔く
 めをゆりせ。一日いちにちよ七次ななつつををあんぢにさうして一日いちにちよ
 あらびるんぢにむらひられ悔くとしをゆりまべし。○五ご使徒しと
 主しゅよひけら。それらに信しんをまさせよ。主しゅよひけら。あんぢ
 らのしりら。だま一粒ひとつぶなどの信しんあらびこの桑樹くわうじゆよぬけ
 て海うみよ植うきとしふともあんぢらよあさうのべし。七しち誰たれうあん

ぢらのうちにあつたひの耕たがあつたひの獸けものを牧まかしめあらんよ。この田たよ
 りうりうりうるときはまゝやうたゆきて食たはつひとしよめのある
 んやへうつていもまやうか食たをそあんぢが食く飲のをそらんま
 で帯おびをいぬれまうつて後のちあんぢくひのまま。九く僕わがあ
 るの命いのちせしことにあつたはうて主しゅよ謝あやをいせ。あうら
 とつたわのありう。十じゆのわがまゝあんぢら命いのちせられ。このまを
 るなりたるまのつとまの無用むようのあひるまをいせ。このまを
 るありといへ。○十じゆ耶穌いすほエルサレムえるさるむよゆくとときサマリアとガリラヤの
 うちをとりはり。ある村むらより。十じゆ人の癩らい者しやありて
 うちよあひ。ちうらに。ちう聲こゑをあげりひけら。十三じゆ師し耶穌いすほ

食飲嫁娶くわんぐいあるとあつて一日いちにちが洪水こうすいきつてうきうきをたふさるるば
せり三まゝにロトの時ときもゆくありき。ひとり喰飲くわんぐい貿易かりかひ樹藝じゆぎ
構造かうぞうなどあつて一日いちにちに三九ロトソドマよりいざなり一日いちにち天あまあり
火ひと硫いりゅうをふらせてうきうきをたふさるるばせり三九人の子ひとこのあ
らるる日ひにもまゝに三三あつて三三その日ひより人ひといひあう
つよあつてその器具うつしものいひあつてその命いのちを取とんととく
ぐるあつてまゝに田畑とまきはあつてのもあつてゆくあつて
三三ロトの妻つまをあつて三三あつてその命いのちをたをけん
せりものいひを失うしなひ。その命いのちをうきうきをたふさるるばせり
これを保全くわんぜんす三三とあつてあつてつげん。その夜よより同床どうとくは

あらんよ一人ひとりのうきうき一人ひとりのうきうき三五あつての婦つまもた
磨らひきつてあらんよ一人ひとりのうきうき一人ひとりのうきうき三六うきうき
とていひけつる主しゆよこのこと何處どこもあつて。うきうきとていひけ
る屍おしのあつてとてうきうきを鷹たかあつてあらん

第十八章

耶穌イエスよ人のつねよりいひて三六懈怠せたいまゝに三六あつて

とていひてうきうきとていひてあるまゝは神かみをあつてまゝに
人ひとをうきうきをたふさるる裁判人さいはんじんありけつて三三その邑まちにやめえんあ
あつてうきうきをたふさるる仇あいつよりまゝにひたすといひてうきうきとて
した四うきうきとていひてうきうきとていひてうきうきとていひてうきうき
にあつていひてうきうきとていひてうきうきとていひてうきうきとていひて

ありし神の國はさるものなり。この神の國はさるものあり。十七
とにあんぢらふつげん。あほよそ嬰孩のこころに神の國
さうけざらぬものなり。これよ入ることをえざらぬあり。十八
とあせりひけり。善師よのぎりるまき生を嗣にめたにこれ
あるをふまむべきなり。十九 耶穌もまたにひけり。あんぞこれを
善といふや。一のやうに善者あり。まきあそち 神あり。二十
誠のあんぢらが知るところなり。英淫はるるまき殺られ竊るれ
廿一 證さうするまき。あんぢの父と母とをうやまふ。廿二
けり。これよあつて幼よりまのれぬものあり。廿三 耶穌もまた
まきしてひけり。あんぢるるひらつを虧。その所有を

とらぐくうりて貧者よあそちを。さうが天よあそち財あるん。
あつてまきう我よまきう。廿三 うれあそちよ富のめあそち
うをこれまきして甚うれひらう。廿四 耶穌もまたに憂へを
とせりひけり。とめるもの神の國よりうらうに難くあり。廿五
とめるもの神の國よりより駱駝の針のあそちとほりるを
あそちまき。廿六 うれまきけるものともひけり。さうが誰
うまきひをうらうまきや。廿七 耶穌もまたに人のあそちえざら
とらうの神のあそちうらうとらうあり。廿八 ペテロもまたにひ
ら一切をまきするんぢにあそち入り。廿九 耶穌もまたにひ
けり。まきしてあんぢらにつげん。あそちを神の國のこ

めは家あつひの父母あつひの兄弟あつひの妻あつひの兒女をまら
るもの^{三二}。今世よ幾倍さうけ來世よのきりあきいのちを
うけざるものあり。○^{三三} 耶穌あつひの門徒をよのち
てられらにいひける。されらエルサレムよのちのち。人の子よ
いて預言者のあつされ。こころの皆とげらる。○^{三四} それ
人の子の異邦人よのちされ戲弄くらめられ唾せら
る。○^{三五} 第三日
よよとげらる。言門徒この語をまら。もさこころを
まら。○^{三六} 耶穌エリコよちうよれら。ある警者
みちのこのころに坐しを。大衆のまらるを
きいて。いふに。こころとひひけきひとく。ナガレの耶穌の
まらるありと告。警者よちういひける。ダビデの子耶穌よ
これをおなれ。○^{三七} 三九
れをいふ。むまごのまら。ダビデの子よこれをおなれ。
なまるとよまら。○^{三八} 耶穌こころとまら。これをつまら
れと命を。警者ちうよりけき。○^{三九} 耶穌これよとひける。あ
ちこれよあまを為られんとぬがや。こころの主よ見る
んころをぬが。○^{四〇} 耶穌これよいひける。見るころをうけよ
るんちの信るんちをまら。○^{四一} 三三

みちのこのころに坐しを。大衆のまらるを
きいて。いふに。こころとひひけきひとく。ナガレの耶穌の
まらるありと告。警者よちういひける。ダビデの子耶穌よ
これをおなれ。○^{三七} 三九
れをいふ。むまごのまら。ダビデの子よこれをおなれ。
なまるとよまら。○^{三八} 耶穌こころとまら。これをつまら
れと命を。警者ちうよりけき。○^{三九} 耶穌これよとひける。あ
ちこれよあまを為られんとぬがや。こころの主よ見る
んころをぬが。○^{四〇} 耶穌これよいひける。見るころをうけよ
るんちの信るんちをまら。○^{四一} 三三

新約全書
路加傳第十九章
自廿六至第九章八節
七十三
八十四

て耶穌イエスはあたらひぬ民たみをあらねを見て神かみをあらう

第十九章

耶穌イエスエリコエリコよりてまきゆくとき二ガアカイガアカイといへる人ひと

あり。税吏しうじのうらりて富とみのあり三耶穌イエスをうらる人ひとあり

う見んとあの人とも身量みりかたひくけき六大衆おほやうあるよりて見

るころをえむ四うれと見んとてをりゆき桑樹くすのきのふち

り。耶穌イエスそのみちを過とほらんとするゆゑあり五耶穌イエスこにきこ

あめぎてうれを見りひけらん六ガアカイガアカイよりてまきゆくとき七耶穌イエス

今日けふうらるる人ひとの家のやどらん。まきゆきゆくとき八耶穌イエス

ろこびて耶穌イエスをむらり七衆人しゆじんこれをえを怨言うらやまひけ

はくれゆきて罪つみあるひとの客きやくとあらり八ガアカイガアカイたをて主しゆ

よるが所有しゆゆの半かたをまぐ一まきのふちをあらん。ゆきこれ証あかし

訟うそて人ひとよりとらるるところあらば四倍よほよりてこれをうぐ

のふち九耶穌イエスうらるひひけらん。今日けふこは家いへまきくをうること

を得えたり。そのこの入いりもアブラハムアブラハムの齋いひるまじあり十それ人の

子こへり十一あひくめのをたがねを救たすん十二あはまきゆくとき十三衆しゆじん

この言ことばをきけるときまき十四譬たとへをまうひせり十五このエルサレム

よちりくうらひひく神かみの國くにをちあに顯明あかしせりとあのがち

ある十三ある貴者きうしやうらり領地りやうちをうけくらんとして遠國とんこく

へゆくとき十三十人じゆじんの僕はやくをまじりて十四金かね十じゆ斤しんをあつ

てりひけらん。まがくらうまで商賣あうりせよ十四その國民くたびうらり

らしてあつさり使をつらちしひひけり。されらこの人を王
とす。らとをこのまを^{十五}領地をうけけうくましとき。あめく
あゆむをいしせるあどこの利をえらうをあらんとて金
をあつるあきてる僕どもを召と命しぬ^{十六}。あめめの一入き
たりしてひひけり。主よあんぢの一斤ハ十斤の利をえらう^{十七}。主
人ひひけり。よ善僕よあんぢの二斤ののめは忠るれが
十の邑をつらさるべし^{十八}。まこつぎの一入きうてひひけ
る。主よあんぢの一斤ハ五斤の利をえらう^{十九}。主人ひひけり。
あんぢも五の邑をつらさるべし^{二十}。まこ一人きうてひひ
けり。主よあんぢの一斤ハこれにあり。これ手巾又つみく

藏あきたりき^三。そのあんぢ嚴入るがゆゑはこれあそれ
り。あんぢ置ざりものをとり播ざりものを獲ひとるまはる
り^三。主人ひひけり。あき僕よこれあんぢの口よりて
あんぢを鞫べし。あんぢそれ嚴ののよて置ざりものをと
り播ざりものをうると志る^三。あうらに何ぞつらきととき
本と利をえんがめよつら金を為替坐^三あづけり
や^三。遂より^三に立るものよりひひけり。このひとの一斤
をとりに十斤ののめにあつよ^五。ひとに主人よ
ひひけり。主よその人まはに十斤をえり^{二六}。主人ひひ
けり。これあんぢらにつげん。それののめにあつられ

のしぬりのその所有のまごめとらるべし
敵をまごめしつが支配をこのまごめをこのよつ
りてつがまごめとらるべし 耶穌このらとをひひのち衆は
さきごちてエルサレムよのちまごめ 橄欖とるぐる山よ
あるベツパダとベタニヤよちるづけるときその門徒ありさつ
うをさんとしひける 對面のむらひゆけ彼處より
む人のしゆご乗ざるところのつぎくる驢駒はあ
それを解てひきつたれぬぬるんぢらよふにゆ
解やとごめものあらづらとらるべし 主の用あり 奉遣
たらのゆきけまごめをこのらとらるべし

遇ぬ驢駒をとるときその主の用あり
ぞ驢駒をとくやとひひとらるべし 主の用ありといひ
てこれを耶穌はひきつたり。あのが衣をそのらよあき
耶穌をそのらよのち 耶穌ゆきけるとき衆そのらよの
を路上よちけり 耶穌エルサレムよちるづき橄欖山をく
ごらんとまごめとき。大衆のちるあよららびその見
ところの奇跡あるまごめの能よよりと大聲よ神を讚美
てひひける 主の名よてきくまごめ王をさしひあり。天
よあゆらと和平よ。いとくまごめとらるまを榮光あるべし
あるぜいのらちよりあるパリサイのひと耶穌はひひ

新約全書 路加傳第十九章 自卅三至四十五節 七十六
路加傳第二十三章 自八至二十節 八十四

師よあんぢの門徒をりきしめよ甲うきらよこしへける
つとまらんぢにつげんこの輩め乙黙止まぶ石さげがべ丙
まをにちうづけらるる城中をみくられらるる哀哭い
ひけらる丁めらんぢごよも今らるるあんぢの日にあらん
あんぢの平安ようをれるらるるをあらむ福あらにらる
あんぢの目よこのくれらる戊あんぢの敵あんぢのやまら
に壘まきづき四方よりあらみせめ己あんぢとその中る
兒女とらるるらるる石を石のうらよのこまらるる日まら
らん。これあんぢその眷顧たまふの時をあらざれらるる
聖庚耶穌ににりらるるらるる貿易せるものをあひら

ご甲うれらにらひけらる。まらるる祈禱の殿ありとま
らるるらるるにらんぢららるるを盗の巢とるせり乙耶穌日
ごと殿よとと丙祭司のをき學者たらの尊者と
ゆられを殺んととられども民とらるるをうらむけてその
まらるるをきけらるる丁あまらるるをあらざらるる
第二章 そのらるる耶穌にやとて民衆を人福音を宣戊
ふ。祭司长學者長老とらにちうより耶穌よこのころてらひ
けらるるあまの權威をゆらとらこのころをあらむる誰がこ
の權威をあへんたたららるるつげよ己こころてらひひ
るら。まらるる一言あんぢららんととらるる。まらるるつげよ

新約全書 路加傳第二十章 自四六至第廿章十節 七十七 八十四

ヨハネのバプテスマを天よりう人よりう^四 うれらざるひよりひ
けら。わ〜天よりといをささるるあまゆ急うれを信ぜ
ざるやといえん^六 わ〜人よりといを民なるヨハネを預言
者と信ぜまをささるるを石よて撃んとて^七 つひよ〜
ていぐれよりあまうあらむといへり^八 耶穌うれらにいひ
けら。こまもま〜あにの權威をゆてられを爲うをるん
ぢらよつげ〜^九 ままをちらの〜を民にの〜れり。
あ〜ひと葡萄園をつくり農夫より〜て久〜他國へゆき
が^十 期い〜りけらむぢらうを〜けの果をうけ〜ん〜めた
僕と農夫のものと〜つうを〜けら。農夫どもこれを撲

〜ぎくむま〜〜くつらせ〜^{十一} ま〜他のあ〜ををつらをせ
〜に〜ま〜のらちたき辱〜めくむま〜〜くつらせ
り^{十二} ま〜三次あ〜のぶをつらをせ〜にこれを傷てあひひ
〜けらむ^{十三} おだらむ〜けの主いひけら。それい〜たるさ
ん。まが愛子をつらをせ〜。これをみむ恭敬するん^{十四} 農
夫どもこれをみ〜ひひ議いひけら。これら嗣子あり
い〜らま〜を〜さん業を〜れらめり〜る〜とて
^{十五} うれを葡萄園のそとにい〜を殺せり。あまら葡萄
園のあ〜い〜ら〜を處〜^{十六} 彼き〜てらの
農夫どもをろろぶ〜ぶだうを〜けを他人はあ〜〜。

新約全書
路加傳第二十章
自十一至二十一節
七十八
八十四

と二九 さるばる七人の兄弟あらんに長子つやをめぐり子
あくしく死三〇 二のめのこの婦をめぐり子あくしく
死三一 三のめをめぐり七人あまどくこれにめぐり
子あくしく死三二 つひは婦も死たり三三 さらば七人とりこ
の婦を妻とせしゆゑは復生たるときを誰の妻とあら
べき三四 耶穌三三 こそくせしひけり。この世の子にめぐり
ことあり三五 この世にりり死する復生はくこのめのの娶嫁
ことあり三六 されあは死することありさるがゆゑあり。そ
の天の使とひとく復生の子よと神の子あまはあり
さく死三七 一のめよとくくくくつきてはモーセ棘中の

篇に主をアブラハムの神イサクの神ヤコブの神といひてこれを
あらをせり三六 それ神はあまくこのめのの神はあらを生か
の神あり。その神のまへにのみる生かめあはる三九 の
學者四〇 こそくくくひけり。師よよくくく四一 このちあへて
耶穌四二 といふのめありき。○耶穌四三 こそくくくひけり。ひ
とくくくくくバキリストをダビデの番といふや四四 四三
うら詩の篇は。主こそ主といひけり。これあんぢの敵をふ
んぢの足登とあまをめぐりて手のうぎに坐せしとく
り四五 さればダビデこれを主とあへて四六 さればうらその番
あらんや四五 民こそくこれをきけるときそのでくといひけ

四六 長服ちやうふくをきてあはくころをころの市上ちやうじやうとて人のあは
さる會堂くわいどうの高坐かうざふりまひの上坐じやうざをよろこぶ學者がくしやをつ
めよ四七。うぢらをせむせんふの家いへをのこ。いつもしてあがき。祈いのち
さるを。罪つみせらるころとめりともあゆ。

第三章

耶穌いしす目をあげ富とみるひとへの捐輸けんじゆをさるせんをこ
よらうを見るみまはあたまがしき中めのよんか。整婦せいふのレプタレプタあつら
りぬるをみてりひけら三。誠まことにふんぢらよつげん。こ
のまがしき中め。整せいのまぐさのめめより多あましき。さう
まらふらふその義餘ぎじゆあつらふより神かみのまをめめ
にりま。このせんふ不足ふそくとらうよりそのしんごりまこ

とぐくしきたれをり五。まはあはひと殿みやの美石みいしと奉納ほうな
ものをめて修飾しゆしることをうたりし六。耶穌いしすひひけらる。
んぢらのころところのめの石いしと石いしのうへよめいしいしを
さう日ひりてらん七。うぢらとめてりひけら。師しよりつぎの
まの事ことあらん。正ただよこのまのまをらん八。しうあ。兆きざしあ
るや。耶穌いしすひひけら。ふんぢらつし九。まをさつら。こ
あられ。そのあはくのめのつらあ飯いひさう十。きつら。我われハキリ
ストあり時ときハちうよまう十一。とらん。さまごふんぢらつあ十二
まられ九。戦いくさみづまをま十三。あそま十四。あられ。ころ十五。のこ
このままあつら止とどま十六。ころ十七。さまご末期まきをい

新約全書
路加傳第二十章
自五至十五節
八十一
八十四

まづはさうやうあるを^十まゝにひけり。民の心をせめ國の
 ことをせめ^{十一}各處^{十二}にある地震^{十三}饑饉^{十四}疫病^{十五}あり。まづ
 あそむべきことあり。あるある異象^{十六}天よりあらるべし^{十七}
 このころより先^{十八}又ひとくちあるをとりて^{十九}窘迫^{二十}會堂^{二十一}お
 よび獄^{二十二}又^{二十三}。まづ名の^{二十四}あは王^{二十五}あはび侯^{二十六}のま^{二十七}はひきゆく
 べし^{二十八}。まづあるべし^{二十九}あるべし^{三十}の事^{三十一}あは證^{三十二}とるあり^{三十三}。あは
 なるんち^{三十四}先^{三十五}あるを^{三十六}とらん^{三十七}とあひひらくるま^{三十八}は^{三十九}を
 心^{四十}よさ^{四十一}にめ^{四十二}は^{四十三}。そのま^{四十四}を^{四十五}するん^{四十六}ち^{四十七}に^{四十八}仇^{四十九}するの^{五十}。辨^{五十一}駁^{五十二}
 ま^{五十三}敵^{五十四}對^{五十五}ら^{五十六}るを^{五十七}。え^{五十八}を^{五十九}る^{六十}口^{六十一}と^{六十二}智^{六十三}と^{六十四}を^{六十五}と^{六十六}れ^{六十七}る^{六十八}ん^{六十九}ち^{七十}ら
 にあ^{七十二}へ^{七十三}ん^{七十四}。ま^{七十五}る^{七十六}ん^{七十七}ち^{七十八}ら^{七十九}父^{八十}母^{八十一}兄^{八十二}弟^{八十三}親^{八十四}戚^{八十五}朋^{八十六}友^{八十七}ある^{八十八}より^{八十九}

ことさ^一に^二。う^三の^四あ^五ん^六ち^七ら^八の^九ら^十ち^{十一}或^{十二}は^{十三}う^{十四}ら^{十五}さ^{十六}ら^{十七}べ^{十八}し^{十九}。ま^{二十}る^{二十一}ん^{二十二}ち^{二十三}ら^{二十四}
 名^{二十五}の^{二十六}あ^{二十七}は^{二十八}ひ^{二十九}と^{三十}く^{三十一}は^{三十二}憾^{三十三}まん^{三十四}。ま^{三十五}る^{三十六}ん^{三十七}ち^{三十八}ら^{三十九}の^{四十}首^{四十一}髮^{四十二}
 ひ^{四十三}ら^{四十四}ま^{四十五}ぢ^{四十六}も^{四十七}ら^{四十八}ら^{四十九}あ^{五十}ま^{五十一}ら^{五十二}。ま^{五十三}る^{五十四}ん^{五十五}ち^{五十六}ら^{五十七}忍^{五十八}耐^{五十九}て^{六十}そ^{六十一}の^{六十二}生^{六十三}命^{六十四}を^{六十五}ま^{六十六}
 つ^{六十七}ら^{六十八}う^{六十九}せ^{七十}よ^{七十一}。ま^{七十二}る^{七十三}ん^{七十四}ち^{七十五}ら^{七十六}軍^{七十七}勢^{七十八}に^{七十九}エル^{八十}サ^{八十一}レ^{八十二}ム^{八十三}の^{八十四}こ^{八十五}ろ^{八十六}を^{八十七}ま^{八十八}を^{八十九}み^{九十}る^{九十一}を^{九十二}。
 その^{九十三}ま^{九十四}ち^{九十五}ら^{九十六}ま^{九十七}よ^{九十八}あ^{九十九}ら^{一百}と^{一百一}志^{一百二}を^{一百三}。その^{一百四}時^{一百五}ユ^{一百六}ダ^{一百七}マ^{一百八}よ^{一百九}ま^{二百}ら^{二百一}の^{二百二}山^{二百三}は
 の^{二百四}う^{二百五}れ^{二百六}は^{二百七}エル^{二百八}サ^{二百九}レ^{三百}ム^{三百一}よ^{三百二}ま^{三百三}ら^{三百四}の^{三百五}の^{三百六}ら^{三百七}い^{三百八}り^{三百九}ど^{四百}よ^{四百一}郷^{四百二}下^{四百三}に^{四百四}ま^{四百五}ら^{四百六}り^{四百七}の^{四百八}の^{四百九}エル^{五百}サ^{五百一}レ^{五百二}ム^{五百三}
 よ^{五百四}ら^{五百五}る^{五百六}あ^{五百七}ら^{五百八}れ^{五百九}。これ^{六百}刑^{六百一}罰^{六百二}の^{六百三}日^{六百四}よ^{六百五}ら^{六百六}あ^{六百七}ら^{六百八}ま^{六百九}ら^{七百}と^{七百一}あ^{七百二}ら^{七百三}さ^{七百四}れ^{七百五}た^{七百六}ら^{七百七}こ^{七百八}の^{七百九}み
 る^{八百}應^{八百一}ら^{八百二}ら^{八百三}日^{八百四}あり^{八百五}。その^{八百六}日^{八百七}よ^{八百八}ら^{八百九}あ^{九百}ら^{九百一}懐^{九百二}孕^{九百三}と^{九百四}哺^{九百五}乳^{九百六}者^{九百七}を^{九百八}つ^{九百九}ら^{一千}と^{一千一}ま^{一千二}ら^{一千三}ひ^{一千四}ら
 る^{一千五}う^{一千六}ら^{一千七}。これ^{一千八}地^{一千九}は^{二千}あ^{二千一}ら^{二千二}あ^{二千三}ら^{二千四}災^{二千五}あり^{二千六}て^{二千七}怒^{二千八}ら^{二千九}の^{三千}民^{三千一}は^{三千二}あ^{三千三}ら^{三千四}ま^{三千五}ら^{三千六}あ^{三千七}ら^{三千八}ま^{三千九}ら^{四千}あ^{四千一}ら^{四千二}ま^{四千三}ら^{四千四}あ^{四千五}ら^{四千六}ま^{四千七}ら^{四千八}あ^{四千九}ら^{五千}ま^{五千一}ら^{五千二}あ^{五千三}ら^{五千四}ま^{五千五}ら^{五千六}あ^{五千七}ら^{五千八}ま^{五千九}ら^{六千}あ^{六千一}ら^{六千二}ま^{六千三}ら^{六千四}あ^{六千五}ら^{六千六}ま^{六千七}ら^{六千八}あ^{六千九}ら^{七千}ま^{七千一}ら^{七千二}あ^{七千三}ら^{七千四}ま^{七千五}ら^{七千六}あ^{七千七}ら^{七千八}ま^{七千九}ら^{八千}あ^{八千一}ら^{八千二}ま^{八千三}ら^{八千四}あ^{八千五}ら^{八千六}ま^{八千七}ら^{八千八}あ^{八千九}ら^{九千}ま^{九千一}ら^{九千二}あ^{九千三}ら^{九千四}ま^{九千五}ら^{九千六}あ^{九千七}ら^{九千八}ま^{九千九}ら^{一万}あ^{一万一}ら^{一万二}ま^{一万三}ら^{一万四}あ^{一万五}ら^{一万六}ま^{一万七}ら^{一万八}あ^{一万九}ら^{二万}ま^{二万一}ら^{二万二}あ^{二万三}ら^{二万四}ま^{二万五}ら^{二万六}あ^{二万七}ら^{二万八}ま^{二万九}ら^{三万}あ^{三万一}ら^{三万二}ま^{三万三}ら^{三万四}あ^{三万五}ら^{三万六}ま^{三万七}ら^{三万八}あ^{三万九}ら^{四万}ま^{四万一}ら^{四万二}あ^{四万三}ら^{四万四}ま^{四万五}ら^{四万六}あ^{四万七}ら^{四万八}ま^{四万九}ら^{五万}あ^{五万一}ら^{五万二}ま^{五万三}ら^{五万四}あ^{五万五}ら^{五万六}ま^{五万七}ら^{五万八}あ^{五万九}ら^{六万}ま^{六万一}ら^{六万二}あ^{六万三}ら^{六万四}ま^{六万五}ら^{六万六}あ^{六万七}ら^{六万八}ま^{六万九}ら^{七万}あ^{七万一}ら^{七万二}ま^{七万三}ら^{七万四}あ^{七万五}ら^{七万六}ま^{七万七}ら^{七万八}あ^{七万九}ら^{八万}ま^{八万一}ら^{八万二}あ^{八万三}ら^{八万四}ま^{八万五}ら^{八万六}あ^{八万七}ら^{八万八}ま^{八万九}ら^{九万}あ^{九万一}ら^{九万二}ま^{九万三}ら^{九万四}あ^{九万五}ら^{九万六}ま^{九万七}ら^{九万八}あ^{九万九}ら^{十萬}ま^{十萬一}ら^{十萬二}あ^{十萬三}ら^{十萬四}ま^{十萬五}ら^{十萬六}あ^{十萬七}ら^{十萬八}ま^{十萬九}ら^{十一萬}あ^{十一萬一}ら^{十一萬二}ま^{十一萬三}ら^{十一萬四}あ^{十一萬五}ら^{十一萬六}ま^{十一萬七}ら^{十一萬八}あ^{十一萬九}ら^{十二萬}ま^{十二萬一}ら^{十二萬二}あ^{十二萬三}ら^{十二萬四}ま^{十二萬五}ら^{十二萬六}あ^{十二萬七}ら^{十二萬八}ま^{十二萬九}ら^{十三萬}あ^{十三萬一}ら^{十三萬二}ま^{十三萬三}ら^{十三萬四}あ^{十三萬五}ら^{十三萬六}ま^{十三萬七}ら^{十三萬八}あ^{十三萬九}ら^{十四萬}ま^{十四萬一}ら^{十四萬二}あ^{十四萬三}ら^{十四萬四}ま^{十四萬五}ら^{十四萬六}あ^{十四萬七}ら^{十四萬八}ま^{十四萬九}ら^{十五萬}あ^{十五萬一}ら^{十五萬二}ま^{十五萬三}ら^{十五萬四}あ^{十五萬五}ら^{十五萬六}ま^{十五萬七}ら^{十五萬八}あ^{十五萬九}ら^{十六萬}ま^{十六萬一}ら^{十六萬二}あ^{十六萬三}ら^{十六萬四}ま^{十六萬五}ら^{十六萬六}あ^{十六萬七}ら^{十六萬八}ま^{十六萬九}ら^{十七萬}あ^{十七萬一}ら^{十七萬二}ま^{十七萬三}ら^{十七萬四}あ^{十七萬五}ら^{十七萬六}ま^{十七萬七}ら^{十七萬八}あ^{十七萬九}ら^{十八萬}ま^{十八萬一}ら^{十八萬二}あ^{十八萬三}ら^{十八萬四}ま^{十八萬五}ら^{十八萬六}あ^{十八萬七}ら^{十八萬八}ま^{十八萬九}ら^{十九萬}あ^{十九萬一}ら^{十九萬二}ま^{十九萬三}ら^{十九萬四}あ^{十九萬五}ら^{十九萬六}ま^{十九萬七}ら^{十九萬八}あ^{十九萬九}ら^{二十萬}ま^{二十萬一}ら^{二十萬二}あ^{二十萬三}ら^{二十萬四}ま^{二十萬五}ら^{二十萬六}あ^{二十萬七}ら^{二十萬八}ま^{二十萬九}ら^{二十一萬}あ^{二十一萬一}ら^{二十一萬二}ま^{二十一萬三}ら^{二十一萬四}あ^{二十一萬五}ら^{二十一萬六}ま^{二十一萬七}ら^{二十一萬八}あ^{二十一萬九}ら^{二十二萬}ま^{二十二萬一}ら^{二十二萬二}あ^{二十二萬三}ら^{二十二萬四}ま^{二十二萬五}ら^{二十二萬六}あ^{二十二萬七}ら^{二十二萬八}ま^{二十二萬九}ら^{二十三萬}あ^{二十三萬一}ら^{二十三萬二}ま^{二十三萬三}ら^{二十三萬四}あ^{二十三萬五}ら^{二十三萬六}ま^{二十三萬七}ら^{二十三萬八}あ^{二十三萬九}ら^{二十四萬}ま^{二十四萬一}ら^{二十四萬二}あ^{二十四萬三}ら^{二十四萬四}ま^{二十四萬五}ら^{二十四萬六}あ^{二十四萬七}ら^{二十四萬八}ま^{二十四萬九}ら^{二十五萬}あ^{二十五萬一}ら^{二十五萬二}ま^{二十五萬三}ら^{二十五萬四}あ^{二十五萬五}ら^{二十五萬六}ま^{二十五萬七}ら^{二十五萬八}あ^{二十五萬九}ら^{二十六萬}ま^{二十六萬一}ら^{二十六萬二}あ^{二十六萬三}ら^{二十六萬四}ま^{二十六萬五}ら^{二十六萬六}あ^{二十六萬七}ら^{二十六萬八}ま^{二十六萬九}ら^{二十七萬}あ^{二十七萬一}ら^{二十七萬二}ま^{二十七萬三}ら^{二十七萬四}あ^{二十七萬五}ら^{二十七萬六}ま^{二十七萬七}ら^{二十七萬八}あ^{二十七萬九}ら^{二十八萬}ま^{二十八萬一}ら^{二十八萬二}あ^{二十八萬三}ら^{二十八萬四}ま^{二十八萬五}ら^{二十八萬六}あ^{二十八萬七}ら^{二十八萬八}ま^{二十八萬九}ら^{二十九萬}あ^{二十九萬一}ら^{二十九萬二}ま^{二十九萬三}ら^{二十九萬四}あ^{二十九萬五}ら^{二十九萬六}ま^{二十九萬七}ら^{二十九萬八}あ^{二十九萬九}ら^{三十萬}ま^{三十萬一}ら^{三十萬二}あ^{三十萬三}ら^{三十萬四}ま^{三十萬五}ら^{三十萬六}あ^{三十萬七}ら^{三十萬八}ま^{三十萬九}ら^{三十一萬}あ^{三十一萬一}ら^{三十一萬二}ま^{三十一萬三}ら^{三十一萬四}あ^{三十一萬五}ら^{三十一萬六}ま^{三十一萬七}ら^{三十一萬八}あ^{三十一萬九}ら^{三十二萬}ま^{三十二萬一}ら^{三十二萬二}あ^{三十二萬三}ら^{三十二萬四}ま^{三十二萬五}ら^{三十二萬六}あ^{三十二萬七}ら^{三十二萬八}ま^{三十二萬九}ら^{三十三萬}あ^{三十三萬一}ら^{三十三萬二}ま^{三十三萬三}ら^{三十三萬四}あ^{三十三萬五}ら^{三十三萬六}ま^{三十三萬七}ら^{三十三萬八}あ^{三十三萬九}ら^{三十四萬}ま^{三十四萬一}ら^{三十四萬二}あ^{三十四萬三}ら^{三十四萬四}ま^{三十四萬五}ら^{三十四萬六}あ^{三十四萬七}ら^{三十四萬八}ま^{三十四萬九}ら^{三十五萬}あ^{三十五萬一}ら^{三十五萬二}ま^{三十五萬三}ら^{三十五萬四}あ^{三十五萬五}ら^{三十五萬六}ま^{三十五萬七}ら^{三十五萬八}あ^{三十五萬九}ら^{三十六萬}ま^{三十六萬一}ら^{三十六萬二}あ^{三十六萬三}ら^{三十六萬四}ま^{三十六萬五}ら^{三十六萬六}あ^{三十六萬七}ら^{三十六萬八}ま^{三十六萬九}ら^{三十七萬}あ^{三十七萬一}ら^{三十七萬二}ま^{三十七萬三}ら^{三十七萬四}あ^{三十七萬五}ら^{三十七萬六}ま^{三十七萬七}ら^{三十七萬八}あ^{三十七萬九}ら^{三十八萬}ま^{三十八萬一}ら^{三十八萬二}あ^{三十八萬三}ら^{三十八萬四}ま^{三十八萬五}ら^{三十八萬六}あ^{三十八萬七}ら^{三十八萬八}ま^{三十八萬九}ら^{三十九萬}あ^{三十九萬一}ら^{三十九萬二}ま^{三十九萬三}ら^{三十九萬四}あ^{三十九萬五}ら^{三十九萬六}ま^{三十九萬七}ら^{三十九萬八}あ^{三十九萬九}ら^{四十萬}ま^{四十萬一}ら^{四十萬二}あ^{四十萬三}ら^{四十萬四}ま^{四十萬五}ら^{四十萬六}あ^{四十萬七}ら^{四十萬八}ま^{四十萬九}ら^{四十一萬}あ^{四十一萬一}ら^{四十一萬二}ま^{四十一萬三}ら^{四十一萬四}あ^{四十一萬五}ら^{四十一萬六}ま^{四十一萬七}ら^{四十一萬八}あ^{四十一萬九}ら^{四十二萬}ま^{四十二萬一}ら^{四十二萬二}あ^{四十二萬三}ら^{四十二萬四}ま^{四十二萬五}ら^{四十二萬六}あ^{四十二萬七}ら^{四十二萬八}ま^{四十二萬九}ら^{四十三萬}あ^{四十三萬一}ら^{四十三萬二}ま^{四十三萬三}ら^{四十三萬四}あ^{四十三萬五}ら^{四十三萬六}ま^{四十三萬七}ら^{四十三萬八}あ^{四十三萬九}ら^{四十四萬}ま^{四十四萬一}ら^{四十四萬二}あ^{四十四萬三}ら^{四十四萬四}ま^{四十四萬五}ら^{四十四萬六}あ^{四十四萬七}ら^{四十四萬八}ま^{四十四萬九}ら^{四十五萬}あ^{四十五萬一}ら^{四十五萬二}ま^{四十五萬三}ら^{四十五萬四}あ^{四十五萬五}ら^{四十五萬六}ま^{四十五萬七}ら^{四十五萬八}あ^{四十五萬九}ら^{四十六萬}ま^{四十六萬一}ら^{四十六萬二}あ^{四十六萬三}ら^{四十六萬四}ま^{四十六萬五}ら^{四十六萬六}あ^{四十六萬七}ら^{四十六萬八}ま^{四十六萬九}ら^{四十七萬}あ^{四十七萬一}ら^{四十七萬二}ま^{四十七萬三}ら^{四十七萬四}あ^{四十七萬五}ら^{四十七萬六}ま^{四十七萬七}ら^{四十七萬八}あ^{四十七萬九}ら^{四十八萬}ま^{四十八萬一}ら^{四十八萬二}あ^{四十八萬三}ら^{四十八萬四}ま^{四十八萬五}ら^{四十八萬六}あ^{四十八萬七}ら^{四十八萬八}ま^{四十八萬九}ら^{四十九萬}あ^{四十九萬一}ら^{四十九萬二}ま^{四十九萬三}ら^{四十九萬四}あ^{四十九萬五}ら^{四十九萬六}ま^{四十九萬七}ら^{四十九萬八}あ^{四十九萬九}ら^{五十萬}ま^{五十萬一}ら^{五十萬二}あ^{五十萬三}ら^{五十萬四}ま^{五十萬五}ら^{五十萬六}あ^{五十萬七}ら^{五十萬八}ま^{五十萬九}ら^{五十一萬}あ^{五十一萬一}ら^{五十一萬二}ま^{五十一萬三}ら^{五十一萬四}あ^{五十一萬五}ら^{五十一萬六}ま^{五十一萬七}ら^{五十一萬八}あ^{五十一萬九}ら^{五十二萬}ま^{五十二萬一}ら^{五十二萬二}あ^{五十二萬三}ら^{五十二萬四}ま^{五十二萬五}ら^{五十二萬六}あ^{五十二萬七}ら^{五十二萬八}ま^{五十二萬九}ら^{五十三萬}あ^{五十三萬一}ら^{五十三萬二}ま^{五十三萬三}ら^{五十三萬四}あ^{五十三萬五}ら^{五十三萬六}ま^{五十三萬七}ら^{五十三萬八}あ^{五十三萬九}ら^{五十四萬}ま^{五十四萬一}ら^{五十四萬二}あ^{五十四萬三}ら^{五十四萬四}ま^{五十四萬五}ら^{五十四萬六}あ^{五十四萬七}ら^{五十四萬八}ま^{五十四萬九}ら^{五十五萬}あ^{五十五萬一}ら^{五十五萬二}ま^{五十五萬三}ら^{五十五萬四}あ^{五十五萬五}ら^{五十五萬六}ま^{五十五萬七}ら^{五十五萬八}あ^{五十五萬九}ら^{五十六萬}ま^{五十六萬一}ら^{五十六萬二}あ^{五十六萬三}ら^{五十六萬四}ま^{五十六萬五}ら^{五十六萬六}あ^{五十六萬七}ら^{五十六萬八}ま^{五十六萬九}ら^{五十七萬}あ^{五十七萬一}ら^{五十七萬二}ま^{五十七萬三}ら^{五十七萬四}あ^{五十七萬五}ら^{五十七萬六}ま^{五十七萬七}ら^{五十七萬八}あ^{五十七萬九}ら^{五十八萬}ま^{五十八萬一}ら^{五十八萬二}あ^{五十八萬三}ら^{五十八萬四}ま^{五十八萬五}ら^{五十八萬六}あ^{五十八萬七}ら^{五十八萬八}ま^{五十八萬九}ら^{五十九萬}あ^{五十九萬一}ら^{五十九萬二}ま^{五十九萬三}ら^{五十九萬四}あ^{五十九萬五}ら^{五十九萬六}ま^{五十九萬七}ら^{五十九萬八}あ^{五十九萬九}ら^{六十萬}ま^{六十萬一}ら^{六十萬二}あ^{六十萬三}ら^{六十萬四}ま^{六十萬五}ら^{六十萬六}あ^{六十萬七}ら^{六十萬八}ま^{六十萬九}ら^{六十一萬}あ^{六十一萬一}ら^{六十一萬二}ま^{六十一萬三}ら^{六十一萬四}あ^{六十一萬五}ら^{六十一萬六}ま^{六十一萬七}ら^{六十一萬八}あ^{六十一萬九}ら^{六十二萬}ま^{六十二萬一}ら^{六十二萬二}あ^{六十二萬三}ら^{六十二萬四}ま^{六十二萬五}ら^{六十二萬六}あ^{六十二萬七}ら^{六十二萬八}ま^{六十二萬九}ら^{六十三萬}あ^{六十三萬一}ら^{六十三萬二}ま^{六十三萬三}ら^{六十三萬四}あ^{六十三萬五}ら^{六十三萬六}ま^{六十三萬七}ら^{六十三萬八}あ^{六十三萬九}ら^{六十四萬}ま^{六十四萬一}ら^{六十四萬二}あ^{六十四萬三}ら^{六十四萬四}ま^{六十四萬五}ら^{六十四萬六}あ^{六十四萬七}ら^{六十四萬八}ま^{六十四萬九}ら^{六十五萬}あ^{六十五萬一}ら^{六十五萬二}ま^{六十五萬三}ら^{六十五萬四}あ^{六十五萬五}ら^{六十五萬六}ま^{六十五萬七}ら^{六十五萬八}あ^{六十五萬九}ら^{六十六萬}ま^{六十六萬一}ら^{六十六萬二}あ^{六十六萬三}ら^{六十六萬四}ま^{六十六萬五}ら^{六十六萬六}あ^{六十六萬七}ら^{六十六萬八}ま^{六十六萬九}ら^{六十七萬}あ^{六十七萬一}ら^{六十七萬二}ま^{六十七萬三}ら^{六十七萬四}あ^{六十七萬五}ら^{六十七萬六}ま^{六十七萬七}ら^{六十七萬八}あ^{六十七萬九}ら^{六十八萬}ま^{六十八萬一}ら^{六十八萬二}あ^{六十八萬三}ら^{六十八萬四}ま^{六十八萬五}ら^{六十八萬六}あ^{六十八萬七}ら^{六十八萬八}ま^{六十八萬九}ら^{六十九萬}あ^{六十九萬一}ら^{六十九萬二}ま^{六十九萬三}ら^{六十九萬四}あ^{六十九萬五}ら^{六十九萬六}ま^{六十九萬七}ら^{六十九萬八}あ^{六十九萬九}ら^{七十萬}ま^{七十萬一}ら^{七十萬二}あ^{七十萬三}ら^{七十萬四}ま^{七十萬五}ら^{七十萬六}あ^{七十萬七}ら^{七十萬八}ま^{七十萬九}ら^{七十一萬}あ^{七十一萬一}ら^{七十一萬二}ま^{七十一萬三}ら^{七十一萬四}あ^{七十一萬五}ら^{七十一萬六}ま^{七十一萬七}ら^{七十一萬八}あ^{七十一萬九}ら^{七十二萬}ま^{七十二萬一}ら^{七十二萬二}あ^{七十二萬三}ら^{七十二萬四}ま^{七十二萬五}ら^{七十二萬六}あ^{七十二萬七}ら^{七十二萬八}ま^{七十二萬九}ら^{七十三萬}あ^{七十三萬一}ら^{七十三萬二}ま^{七十三萬三}ら^{七十三萬四}あ^{七十三萬五}ら^{七十三萬六}ま^{七十三萬七}ら^{七十三萬八}あ^{七十三萬九}ら^{七十四萬}ま^{七十四萬一}ら^{七十四萬二}あ^{七十四萬三}ら^{七十四萬四}ま^{七十四萬五}ら^{七十四萬六}あ^{七十四萬七}ら^{七十四萬八}ま^{七十四萬九}ら^{七十五萬}あ^{七十五萬一}ら^{七十五萬二}ま^{七十五萬三}ら^{七十五萬四}あ^{七十五萬五}ら^{七十五萬六}ま^{七十五萬七}ら^{七十五萬八}あ^{七十五萬九}ら^{七十六萬}ま^{七十六萬一}ら^{七十六萬二}あ^{七十六萬三}ら^{七十六萬四}ま^{七十六萬五}ら^{七十六萬六}あ^{七十六萬七}ら^{七十六萬八}ま^{七十六萬九}ら^{七十七萬}あ^{七十七萬一}ら^{七十七萬二}ま^{七十七萬三}ら^{七十七萬四}あ^{七十七萬五}ら^{七十七萬六}ま^{七十七萬七}ら^{七十七萬八}あ^{七十七萬九}ら^{七十八萬}ま^{七十八萬一}ら^{七十八萬二}あ^{七十八萬三}ら^{七十八萬四}ま^{七十八萬五}ら^{七十八萬六}あ^{七十八萬七}ら^{七十八萬八}ま^{七十八萬九}ら^{七十九萬}あ^{七十九萬一}ら^{七十九萬二}ま^{七十九萬三}ら^{七十九萬四}あ^{七十九萬五}ら^{七十九萬六}ま^{七十九萬七}ら^{七十九萬八}あ^{七十九萬九}ら^{八十萬}ま^{八十萬一}ら^{八十萬二}あ^{八十萬三}ら^{八十萬四}ま^{八十萬五}ら^{八十萬六}あ^{八十萬七}ら^{八十萬八}ま^{八十萬九}ら^{八十一萬}あ^{八十一萬一}ら^{八十一萬二}ま^{八十一萬三}ら^{八十一萬四}あ^{八十一萬五}ら^{八十一萬六}ま^{八十一萬七}ら^{八十一萬八}あ^{八十一萬九}ら^{八十二萬}ま^{八十二萬一}ら^{八十二萬二}あ^{八十二萬三}ら^{八十二萬四}ま^{八十二萬五}ら^{八十二萬六}あ^{八十二萬七}ら^{八十二萬八}ま^{八十二萬九}ら^{八十三萬}あ^{八十三萬一}ら^{八十三萬二}ま^{八十三萬三}ら^{八十三萬四}あ^{八十三萬五}ら^{八十三萬六}ま^{八十三萬七}ら^{八十三萬八}あ^{八十三萬九}ら^{八十四萬}ま^{八十四萬一}ら^{八十四萬二}あ^{八十四萬三}ら^{八十四萬四}ま^{八十四萬五}ら^{八十四萬六}あ^{八十四萬七}ら^{八十四萬八}ま^{八十四萬九}ら^{八十五萬}あ^{八十五萬一}ら^{八十五萬二}ま^{八十五萬三}ら^{八十五萬四}あ^{八十五萬五}ら^{八十五萬六}ま^{八十五萬七}ら^{八十五萬八}あ^{八十五萬九}ら^{八十六萬}ま^{八十六萬一}ら^{八十六萬}

國はひられエルサレムを異邦人の時みつるまをわりのまらぶな
蹂躪るべし三五 まるく日月星は異象あらべし。地まわりの諸國の人
かゝるしと海と波との滿渚はよりてうろくへ二六 ひらぐあそれ
つて世界はきこつてらんときることを俟るやむべし。これ天のい
きろひ震動まをべけまをるあり二七 そめときひとくも人の子の
權威とあるのるる榮光をめて雲よのりきこるを見るべし二八
こまらものころもの成そめんときまよひ起てるんぢらめ首を
あげよ。そらるんぢらの贖ちうけをるあり二九 耶穌Jesus こそを
らまらよ語けら。無花果とまをべし三〇 の樹とよよ三十一 まをに萌
かるんぢらこれを見てみづろも夏へもや近とまを三二 三

のころくるんぢらものころもの成をみを神の國の
ちうきをまを三三 まらうとに我るんぢらにつげん。この事ま
あるまをこの世の遊三四 天地三五 のまをるべし。そまらと
もつら言をまをるべし三六 んぢらにまをるを慎よ
あそらるる飲食まをけり世事ままをまをれ。んぢらのこ
ろ昏迷ありてあひひよらざるときまよひこの日るんぢらよ
臨ん三五 くれ機檻のころくあまねく地のろくま居りのため
そむる三六 このゆゑまをるんぢら傲醒てこののぞまんとま
るすべしをのらるを避また人の子のまよは立らるやうにつね
よりのれ三七 耶穌Jesus ひらの殿まをる人夜をいぞく橄欖とい

とものたつまへり^{十五} 耶穌^{イソラス}もまたたつひけり我^{われ}もみそ
りこらまへるあんぢらとものたつ^{十六}の逾越^{イサハ}と食^イはるること
大^{あま}なぬぐり^{十七}これあんぢらにつげんこれを神^{カミ}の國^{クニ}は
應^{オウ}成^{テイ}まはるまへりこれを食^イせ^{十八} 耶穌^{イソラス}杯^{サイ}をと^{十九}謝^{シヤ}
てしひけり。これをとりてこがひよとてよ^{二十}とせり
んぢらにつげん。神^{カミ}の國^{クニ}のきこるまへり葡萄^{ブドウ}よりつ
りしものを飲^イべ^{二十一} また餅^{パン}をと^{二十二} 謝^{シヤ}して擘^{ヒキ}くぢら
にあへりてしひけり。これあんぢらのためにあへり
る身體^{コトカラ}あり。これを記^{オモヒ}ん^{二十三}とめたこれをあせ^{二十四}まへ食^イ
しての杯^{サイ}をと^{二十五}りしひけり。この杯^{サイ}はあんぢらのため

るがまへり血^チよして立^{タツ}るところの新^{シン}約^{ヤク}あり^{二十六}そをこられ
てしひけり手^テのひねとものた^{二十七}案^{アン}にあり^{二十八}人の子^{ヒトコ}は
こしてさへめられりこらとて^{二十九}遊^{ユウ}ん。されども人^{ヒト}の子^コを
こらまへりてしひけり^{三十}衆^{シユ}のこらとをせんもの
は誰^{タレ}もろくとこがひよとひぬ^{三十一}まへり^{三十二}のうぢらにそ
長^{チカ}らもの誰^{タレ}もろくと互^{タガヒ}のあらそひあり^{三十三} 耶穌^{イソラス}
まらたしひけり。異邦^{イホウ}人の王^{オウ}の民^{ミン}を志^シをらまへ^{三十四}まへそ
のうぢは權^{ケン}をとらもの恩^{オン}をぶとこまへのと稱^{ホト}らる^{三十五}され
どもあんぢらの如^{ごと}く^{三十六}まへり^{三十七}あんぢらのうぢ大^{オホ}なる
もののうぢきこら^{三十八}首^{ウタ}のつうあるものうぢらと

とらうらむらむ成らうらむげむむらう^{三六}うむらうらひけらる。主^{しゅ}
みよこくにうたつめ刀^{やいば}あり。耶穌^{いしす}うれららひひけらる。足^{あし}り^{三九}耶穌^{いしす}
うらむ例^{れい}のこころ^{こころ}椒欖^{えんらん}の山^{やま}にゆきけらるにその門徒^{かど}もあつ
た^{四〇}。そのとこころ^{こころ}より^{より}てり^{てり}むらうらひひけらる。誘惑^{すゐくわく}
まらうらむらうらひひけらる。耶穌^{いしす}うらむらむをまられて石^{いし}の投^ならうら
むらうらむらう^{四一}曲膝^{まがひざ}のりひひけらる。父^{ちち}よめ^{よめ}聖旨^{せいし}よりうら
むらうらむの杯^{さかづき}を^をられよりむらうらむらう。さうらむらむらう^{四二}意^い
あらむらむらむ^{四三}聖旨^{せいし}のまらに^にあ^あらむらむ^{四四}天使^{てんし}天^{てん}より^{より}うらむ
にあらむらむらむ^{四五}健壯^{けんざう}を^をそ^そへぬ^{へぬ}耶穌^{いしす}うらむらむ^{四六}哀^{あはれ}あ^あらむらむ^{四七}
ら^{四八}の^のあ^あらむらむ^{四九}汗^{あせ}の^のあ^あらむらむ^{五〇}の^のあ^あらむらむ^{五一}地^ちにあ^あらむらむ^{五二}

^{四五}祈^{いのり}より^{より}うらむらむ^{四六}門徒^{かど}よ^よき^きうらむらむ^{四七}うらむらむ^{四八}が^が憂^{うれ}て^てあ^あらむらむ^{四九}
ら^{五〇}見^みら^らひ^ひけ^けらる。あ^あらむらむ^{五一}あ^あらむらむ^{五二}あ^あらむらむ^{五三}あ^あらむらむ^{五四}あ^あらむらむ^{五五}
あ^あらむらむ^{五六}あ^あらむらむ^{五七}あ^あらむらむ^{五八}あ^あらむらむ^{五九}あ^あらむらむ^{六〇}あ^あらむらむ^{六一}あ^あらむらむ^{六二}
あ^あらむらむ^{六三}あ^あらむらむ^{六四}あ^あらむらむ^{六五}あ^あらむらむ^{六六}あ^あらむらむ^{六七}あ^あらむらむ^{六八}あ^あらむらむ^{六九}あ^あらむらむ^{七〇}
あ^あらむらむ^{七一}あ^あらむらむ^{七二}あ^あらむらむ^{七三}あ^あらむらむ^{七四}あ^あらむらむ^{七五}あ^あらむらむ^{七六}あ^あらむらむ^{七七}あ^あらむらむ^{七八}あ^あらむらむ^{七九}あ^あらむらむ^{八〇}
あ^あらむらむ^{八一}あ^あらむらむ^{八二}あ^あらむらむ^{八三}あ^あらむらむ^{八四}あ^あらむらむ^{八五}あ^あらむらむ^{八六}あ^あらむらむ^{八七}あ^あらむらむ^{八八}あ^あらむらむ^{八九}あ^あらむらむ^{九〇}
あ^あらむらむ^{九一}あ^あらむらむ^{九二}あ^あらむらむ^{九三}あ^あらむらむ^{九四}あ^あらむらむ^{九五}あ^あらむらむ^{九六}あ^あらむらむ^{九七}あ^あらむらむ^{九八}あ^あらむらむ^{九九}あ^あらむらむ^{一〇〇}

にきこりし祭司のさき殿の庶司と長老もたらしひけり。
あんなぢら刀と棒とをもちきこり強盗もむろふがこころ
まらり^{五三}これ日々あんなぢらことよに殿ありしとき
それな手をおくこころありき。あんなに今もあんなぢらの時
りの黑暗のらきるひあり^{五四}あんなに耶穌をとり入曳て祭
司のさきの家につまゆけり。ペテロもあんなに従ひぬ^{五五}ひびく
中庭のらち又火をこきとよに坐し^{五六}はあんなにペテロもその
あんなに坐あそり^{五六}あんなに婢もあんなに火のこころをらに坐ま
を見られをつらくこころひけり。あんなに人あんなにこころ
ありし^{五七}ペテロもあんなに女もあんなにこれをおく

としり^{五八}あんなにこころ他の人あんなに見てひけり。あ
んなにぢら一人あり。ペテロもひけり。人あんなにあんなに
あんなに^{五九}あんなに一時もあんなにあんなに人あんなにひけり。
あんなにこころの人あんなにあんなに。これガラヤの人
あんなに^{六〇}ペテロもひけり。人あんなにあんなに言とこころ
識あんなにひもあんなにあんなにあんなに主身をう
し^{六一}ペテロも見たあんなに。今日もあんなに鳴まはし三たび
あんなにあんなに主のひたあんなに言をペテロあんなに
あんなに^{六二}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{六三}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{六四}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{六五}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{六六}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{六七}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{六八}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{六九}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{七〇}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{七一}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{七二}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{七三}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{七四}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{七五}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{七六}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{七七}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{七八}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{七九}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{八〇}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{八一}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{八二}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{八三}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{八四}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{八五}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{八六}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{八七}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{八八}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{八九}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{九〇}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{九一}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{九二}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{九三}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{九四}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{九五}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{九六}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{九七}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{九八}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{九九}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに
あんなに^{一〇〇}あんなにあんなにあんなにあんなにあんなに

十字架ごうじゅうにつけよといふ三ピラトピラト三次さんじにひけらる。うれをるん
の悪事あくじをせしめられしやぶるまの死罪しざいあるをさげぬが
答こたへりてゆるさん三がまらるるをげしき聲こゑをさしきく。この事を
十字架ごうじゅうにつけんとしむ慕まほまら。つひよりまらるる祭司さいしのさ
さのしるるあしき事こと。ピラトピラトその求ねがひのこころしきまて三五くれ
らかねがくの一揆いつぎをあしき人ひとをさしきし獄いよりしきるゆ
のを釋はなそのころよりまらるるをせしめしき。耶穌イエスキリをさしきせしき。耶穌イエスキリ
さひきゆらるる時とき田間たの間よりしきまらるるクレ子のシモンシモンとい
るものをとりてそれと十字架ごうじゅうをあしきせしめしき。耶穌イエスキリにあしきしき
せしき。あしき民たみあしき婦むすめあしき志こゝろあしき婦むすめあしき志こゝろあしき婦むすめあしき志こゝろ

うれをるるあしき事ことありしき。耶穌イエスキリをさしきしき。耶穌イエスキリ
エルサレムエルサレムの女子むすめよるるあしき事ことに哭なあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事こと
子のあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事こと
せざるの乳ちちの福ふくありしき。産うまざるあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事こと
山やまむらひてしきるあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事こと
せん三の青木あおきよるるあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事こと
○三まに他にたあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事こと
んとてひきあけり三くまらるるクラニオンクラニオンといふあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事こと
りてしき。耶穌イエスキリあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事こと
耶穌イエスキリの右みぎひとりひとを左ひだりにあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事ことあしき事こと

る。その所爲をあらざらざるがゆゑあり。うれら闕を
して耶穌の衣服をつらうの^{三三}ひびく立て耶穌を見たり。有司
ゆまゝあざつらうあそひひけり。うまひ他人をまゝくへり。
の。キリスト神のえらみたるものあるが自をまゝくへ
づ。兵卒ゆまゝつらうあそひを嘲弄しきくり酢をあへて
^{三六}あんぢの。ユダヤびびの王あらがごうらうをまゝくへと
りへり。ユダヤびびの王あらがごうらうをまゝくへと
との王ありとらけり罪標をそのうへに建てる。これらユダヤび
びの罪人のひとり耶穌をまゝくへりてひひけり。あんぢの
キリストあらをあのれとそれらをまゝくへり。あんぢの一人に

る。てらをひまゝあそひひけり。あんぢあそひく罪を
らけらから神をあそれざら^{三四}らら然るる所行
らこの報をうけるあれどこの人をまゝくへり。不是^{三九}らあ
さづまゝあり。耶穌よりひひけり。あんぢこの國よ
きこらんときそれを憶ふ^{四〇}。耶穌こそひひけり。まゝくへ
に我あんぢにつげん今日あんぢのれととのに樂園^{四一}よ
在る。○時あはよを十二時ごろより三時よりよりまゝく
あまねく地のらく黑暗とあり^{四二}。日光くらと殿のらあ
の斗帳のあり^{四三}。裂き^{四四}。耶穌あそひひけり。まゝくへり
ひひけり。父よつごなまゝひをあんぢの手にあづく。うへひひて

氣^{イキ}はゆ 百夫^{ヒヤクブ}の長^{チカ}このるりしとをさく神^{カミ}をるめそひ
けり。まことたこのひとに義^ギ入^イるき只^{ただ}これを見んとそ
聚^{アツ}むらひらぐ。このありしとをさく膺^{ウラ}を拊^ヒ
てく。只^{ただ}耶穌^{イシュ}の相識^{シヤクシ}のひととあやびカリラヤよりあ
らひひ婦^メどもとあく立^タてて見^ミらるることを見らる。○集^{アツ}
議^ギ官^{カン}あるヨセフとシハの善^{ゼン}く義^ギあるひとあり。五^五
の評議^{ヒヤクシ}と所^{トコロ}爲^ナをうけり。ユダヤのマリマヤ
の邑^{ムラ}の人^{ヒト}とて神^{カミ}の國^{クニ}をまてらるるあり。五^五
ゆき耶穌^{イシュ}の屍^シをこむて。五^五これをさうあらし布^ヌをさつ
らひやう人^{ヒト}を葬^{ナシ}し。こころる石^{イシ}の數^{カズ}ある墓^{ハカ}にあけり。

五^五この日^ヒも備^{ソノゾク}節^{ノド}あり。あの安息^{アンス}日^{ニチ}ちうづきぬ。五^五ガリラヤより
耶穌^{イシュ}とそめにきこらる。婦^メども後^{アト}はあさひてその墓^{ハカ}と屍^シ
のあられらさうを見^ミらる。五^五うれうらうて香料^{カウキリ}と香膏^{カウキリ}をこ
のひあきて誠^{マコト}はあさひ安息^{アンス}日^{ニチ}をやまめり。
第^{ダイ}四^シ章^{チャウ} 七日^{ニチ}の首^{カビ}日^{ニチ}の昧^{マク}爽^{スウ}よこの女^メとち備^{ソノゾク}あきこる香料^{カウキリ}
をのちて墓^{ハカ}よきこらる。女^メとちもとのにきこれ
り。二^ニ人^ニら石^{イシ}の墓^{ハカ}より轉^{マシ}らる。三^三人^ニ入^イけきを主^{ヌシ}耶^ヤ
穌^{シュ}の屍^シをみむ。四^四人^ニがためは躊躇^{チウヂウ}をり。にうづやける
衣服^{イフク}をきこる。二^ニ人^ニそのうらうらよさたり。五^五人^ニらあそ
れを面^{オモテ}を地^チよふせしむ。その人^{ヒト}ひひける。あんぢうらん

んぞ死しするのめらうちに生いするのめを求いるや六うねこと
にあらむ復よ活かする。ガリラヤガリラヤに居する人ひとの手にて十
うりて。人ひとの子こともあらむ罪つとある人ひとの手にて十
十字架じゅうじあにつけらむ。第三日みつうじちよよみぐるべし。とひひししを
憶おもひたまへ。うりてその言ことばをあひひりや。墓はかよりいへりてこ
れらのことことをさる十一の門徒かどとるるのめらうちに告つ
す。これらのことことを使徒しとよつげらるめめめマгдаラのマリア。
ヨハン。ヤコブの母ははありマリアマリア。他ほかよものにあり。女むすめもあ
る。使徒しとそのいふことことを虚誕むのうたとあひひて信しんぜむべし。
起おこてもし。墓はかよゆきうらまりて。桌布めいぶのうらよせあを見み

てその遇あひとらうのこころを奇あましくうりて。○十三當日このひに
の門徒かどエルサレムエルサレムより三里許さんりきょへりける。エマヲエマヲといふむら
にゆきけるに十四。たがひよこれらの所遇あひらむもさうしう
あへり十五。あつらふ論えんむるときに耶穌いすすみづら近づちかづきてとゆ
よゆり十六。されどその目めやうらされて知しることを得えざる。耶穌いすす
いひける。あんがうあゆむつたがひよ。あのみ談論だんろんらるる
んぞや十八。その一人ひとりの名なオバといふものこころ入いける。あんがを
エルサレムエルサレムの旅たびよよ志して獨ひとりこのごらあり。こころをあらがう十九
へひらる。あつらふことごとや。これよひひける。ナザレナザレの耶穌いすすのこころあ
り。この人ひとも神かみと萬民ばんじんのまへよあひて行いと言ことばよあひ

ある能あつ預言者ありしが 祭司のささと有司とあり
うれを死罪よすして十字架につけしう 三つとありし
イスラエルを贖はんのめいのこの人ありと望しうし。まことそ
まのまあるを此等のことの成しよりけめい 第三日ある
に 三つとありしの中あるある婦とありしれらるを驚駭せり。
うきらあきさをゆく墓よゆき 三つその屍をささしとてさ
り。天の使あらわれて彼をよみくへさうとらんを見
たりとつぐ言まへ我らとどのにありしもの墓に
ゆきたりは婦のしるごらうて且う墓を見ざりき
三 耶穌しひけり。預言者のすべりひくこととを信

あることとの遅ああるものよ 三六 キリストをいれらるの
難とらひてその榮光はらぶきにあらまや 由急にモーセ
よりまへその預言者ささめめまへその聖書よあのそ
あのみよつとてこのこととを詳明されたり 二九 うきらあ
とこのの郷にあらぶきけり。彼ゆきまきんとするは
しきとるせを 二九 のれらまめいひけり。日うたあき
て暮にあまびぬ。まらととのに止ま。うれりそと
まる 三十 とのよ食よつひるとき餅をとる謝して摩ら
まらにあまへけり 二徒のめい目あきららる
りて彼を志せり。まら忽その目よこらるるぬり 三

のまごまご録（三）。の〜キリストと苦（四）をろけ（五）第三日
 によまごまご（四）まごその名（五）によりて悔改（六）と赦罪（七）を
 エルサレムより（八）あり萬國（九）にのぶつて入らま（十）ん
 けりらの事（十一）の證入（十二）あり（十三）それより父（十四）のちうひのものを
 むんぢら（十五）にあくら（十六）ん。あんな（十七）ぢら（十八）より（十九）權（二十）をさびけら（二十一）
 まご（二十二）エルサレム（二十三）にとま（二十四）ま（二十五）れ（二十六）耶穌（二十七）う（二十八）ま（二十九）ま（三十）ま（三十一）ま（三十二）ま（三十三）ま（三十四）ま（三十五）ま（三十六）ま（三十七）ま（三十八）ま（三十九）ま（四十）ま（四十一）ま（四十二）ま（四十三）ま（四十四）ま（四十五）ま（四十六）ま（四十七）ま（四十八）ま（四十九）ま（五十）ま（五十一）ま（五十二）ま（五十三）ま（五十四）ま（五十五）ま（五十六）ま（五十七）ま（五十八）ま（五十九）ま（六十）ま（六十一）ま（六十二）ま（六十三）ま（六十四）ま（六十五）ま（六十六）ま（六十七）ま（六十八）ま（六十九）ま（七十）ま（七十一）ま（七十二）ま（七十三）ま（七十四）ま（七十五）ま（七十六）ま（七十七）ま（七十八）ま（七十九）ま（八十）ま（八十一）ま（八十二）ま（八十三）ま（八十四）ま（八十五）ま（八十六）ま（八十七）ま（八十八）ま（八十九）ま（九十）ま（九十一）ま（九十二）ま（九十三）ま（九十四）ま（九十五）ま（九十六）ま（九十七）ま（九十八）ま（九十九）ま（百）
 けりらの手（十一）を舉（十二）てら（十三）を祝（十四）を祝（十五）を祝（十六）を祝（十七）を祝（十八）を祝（十九）を祝（二十）を祝（二十一）を祝（二十二）を祝（二十三）を祝（二十四）を祝（二十五）を祝（二十六）を祝（二十七）を祝（二十八）を祝（二十九）を祝（三十）を祝（三十一）を祝（三十二）を祝（三十三）を祝（三十四）を祝（三十五）を祝（三十六）を祝（三十七）を祝（三十八）を祝（三十九）を祝（四十）を祝（四十一）を祝（四十二）を祝（四十三）を祝（四十四）を祝（四十五）を祝（四十六）を祝（四十七）を祝（四十八）を祝（四十九）を祝（五十）を祝（五十一）を祝（五十二）を祝（五十三）を祝（五十四）を祝（五十五）を祝（五十六）を祝（五十七）を祝（五十八）を祝（五十九）を祝（六十）を祝（六十一）を祝（六十二）を祝（六十三）を祝（六十四）を祝（六十五）を祝（六十六）を祝（六十七）を祝（六十八）を祝（六十九）を祝（七十）を祝（七十一）を祝（七十二）を祝（七十三）を祝（七十四）を祝（七十五）を祝（七十六）を祝（七十七）を祝（七十八）を祝（七十九）を祝（八十）を祝（八十一）を祝（八十二）を祝（八十三）を祝（八十四）を祝（八十五）を祝（八十六）を祝（八十七）を祝（八十八）を祝（八十九）を祝（九十）を祝（九十一）を祝（九十二）を祝（九十三）を祝（九十四）を祝（九十五）を祝（九十六）を祝（九十七）を祝（九十八）を祝（九十九）を祝（百）
 をもる（十一）天（十二）よあげ（十三）られ（十四）ら（十五）う（十六）う（十七）う（十八）う（十九）う（二十）う（二十一）う（二十二）う（二十三）う（二十四）う（二十五）う（二十六）う（二十七）う（二十八）う（二十九）う（三十）う（三十一）う（三十二）う（三十三）う（三十四）う（三十五）う（三十六）う（三十七）う（三十八）う（三十九）う（四十）う（四十一）う（四十二）う（四十三）う（四十四）う（四十五）う（四十六）う（四十七）う（四十八）う（四十九）う（五十）う（五十一）う（五十二）う（五十三）う（五十四）う（五十五）う（五十六）う（五十七）う（五十八）う（五十九）う（六十）う（六十一）う（六十二）う（六十三）う（六十四）う（六十五）う（六十六）う（六十七）う（六十八）う（六十九）う（七十）う（七十一）う（七十二）う（七十三）う（七十四）う（七十五）う（七十六）う（七十七）う（七十八）う（七十九）う（八十）う（八十一）う（八十二）う（八十三）う（八十四）う（八十五）う（八十六）う（八十七）う（八十八）う（八十九）う（九十）う（九十一）う（九十二）う（九十三）う（九十四）う（九十五）う（九十六）う（九十七）う（九十八）う（九十九）う（百）
 たく（十一）よ（十二）あ（十三）ら（十四）び（十五）エルサレム（十六）より（十七）う（十八）う（十九）う（二十）う（二十一）う（二十二）う（二十三）う（二十四）う（二十五）う（二十六）う（二十七）う（二十八）う（二十九）う（三十）う（三十一）う（三十二）う（三十三）う（三十四）う（三十五）う（三十六）う（三十七）う（三十八）う（三十九）う（四十）う（四十一）う（四十二）う（四十三）う（四十四）う（四十五）う（四十六）う（四十七）う（四十八）う（四十九）う（五十）う（五十一）う（五十二）う（五十三）う（五十四）う（五十五）う（五十六）う（五十七）う（五十八）う（五十九）う（六十）う（六十一）う（六十二）う（六十三）う（六十四）う（六十五）う（六十六）う（六十七）う（六十八）う（六十九）う（七十）う（七十一）う（七十二）う（七十三）う（七十四）う（七十五）う（七十六）う（七十七）う（七十八）う（七十九）う（八十）う（八十一）う（八十二）う（八十三）う（八十四）う（八十五）う（八十六）う（八十七）う（八十八）う（八十九）う（九十）う（九十一）う（九十二）う（九十三）う（九十四）う（九十五）う（九十六）う（九十七）う（九十八）う（九十九）う（百）
 頌美（十一）ま（十二）ま（十三）祝謝（十四）せり。アーメン



010190528699

